建築ト社會

第六輯　第六号



薫風

大正十二年六月一日

日本建築協會

日本建築協會會則

第一條　本會ノ目的ハ我國建築界ノ堅實ナル發展ヲ期スルニ在リ

第二條　本會ハ日本建築協會ト稱ス

第三條　本會ハ事務所ヲ大阪市ニ置ク

地方ニ支會ヲ設クルコトヲ得

第四條　本會ハ人格、學識、經驗アル建築家ヲ以テ會員トス

會員ノ氏名住所ハ會員名簿ニ之ヲ記錄ス

會員タラントス希望スル者ハ會員五名以上ノ紹介ヲ以テ入會希望書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會ニ於テ議決ス

第五條　本會ハ其目的ヲ賛成ノ事業ヲ援助スル者ヲ賛助員トス

賛助員ヲ分チテ左ノ四種トス

一　名譽賛助員―地位又ハ學識アル名望家

二　終身賛助員―金參百圓以上又ハ之ニ相當スル物件ヲ本會ニ寄附スル篤志家

三　特別賛助員―建築ニ關聯スル特種ノ技術家又ハ事業家

四　普通賛助員―建築ニ關係又ハ趣味ヲ有スル者

賛助員ノ氏名住所寄附ノ金額又ハ物件ハ各賛助員名簿ニ之ヲ記錄ス

第六條　名譽賛助員ハ例會ノ決議ニ依リ本會ノ之ヲ推薦ス

終身賛助員タラントスル者ハ會員貳名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及寄附ノ金額又ハ物件ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

特別賛助員タラントスル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及履歷書ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

普通賛助員タラントスル者ハ會員貳名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及履歷書ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

第七條　會員ハ會內ニ於ケル其言行ニ付會外ニ於テ責ヲ任ゼザルコトヲ得

名譽賛助員ハ本會ノ優遇及第十九條ニ基キ相當ノ利得ヲ受ク

終身賛助員、特別賛助員及普通賛助員ハ第十九條ニ基キ會誌ノ配布其他各相當ノ利得ヲ受ク

第八條　會員ニシテ脫會セムトスル者ハ其旨ヲ本會ニ申込ムベシ

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第九條　本會ハ會員ニシテ本則ノ規定ニ違背シ又ハ本會ノ名譽ヲ汚スノ行爲アリト認メラルル者ニ對シ理事會ノ決議ヲ經テ其權利ヲ停止シ若ハ之ニ脫會ヲ勸告シ又ハ例會ノ決議ヲ經テ之ヲ除名スルコトヲ得

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第十條　脫會其他ノ事由ニ因リ會員ダルノ資格ヲ失ヒタル者ハ既納會費ノ返還ヲ求メ又ハ其債務ヲ免ガルヽコトヲ得ズ

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第十一條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一　會頭　一名

二　副會頭　二名

三　理事長　一名

四　理事　十名（理事長ヲ含ム）

會頭ハ會務ヲ總監シ本會ヲ代表ス

副會頭ハ會頭ヲ補佐シ會頭事故アルトキ其職務ヲ代理ス

理事長ハ會務ヲ總理シ會頭、副會頭事故アルトキ其職務ヲ代理シ理事會ヲ代表ス

理事ハ會務ヲ處理シ理事長事故アルトキ理事會ノ決議ニ依リ其職務ヲ代理ス

第十二條　役員ハ會員中ヨリ例會ニ於テ之ヲ選舉ス但會頭、副會頭ハ名譽賛助員中ヨリ之ヲ選出スルコトヲ得

理事長ハ理事之ヲ互選ス

役員ノ任期ハ二年トス　但シ理事長ニ付テハ一年トス

理事ノ改選ハ毎年半數トス但引續キ重任スルコトヲ得ズ

第十三條　本會ニ左ノ職員ヲ置ク

一　主記　一名

二　主計　一名

三　編輯　三名

四　編輯補　若干名

五　書記　若干名

主記ハ庶務ヲ、主計ハ會計ヲ、編輯ハ編纂ヲ處理ス

編輯補ハ編輯ノ旨ヲ受ケ編纂ヲ分掌ス

書記ハ理事長、理事ノ命ヲ受ケ會務ニ從事ス

第十四條　主記、主計、編輯ハ理事之ヲ互選ス

編輯補ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名ス

書記ハ理事會之ヲ任命シ有給トスルコトヲ得

第十五條　本會ハ調査研究ノ必要ニ應シ例會ノ決議ニ依リ各部委員長及委員ヲ設ケ各部ニ委員長一名委員若干名ヲ置ク

委員長及委員ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名シ委員長ハ當該委員ノ互選トス

理事會ハ特殊事項ニ關シ會員外ノ專門家ヲ臨託委員トスルコトヲ得

第十六條　委員長ハ當該委員會ヲ代表シ委員長事故アルトキハ當該委員會ノ決議ニ依リ委員其職務ヲ代理ス

委員會ノ經過ハ例會ニ於テ之ヲ報告ス

委員會ノ調査研究報告ハ例會ノ決議ヲ經テ本會ノ名ヲ以テ之ヲ發表ス但シ緊急事項ニ付テハ理事會ノ承認ヲ經テ當該委員會ノ名ヲ以テスルコトヲ得

第十七條　本會ハ毎月一回會員ヲ召集シ例會ヲ開キ重要事項ヲ審議シ報告會、講話會、討論會又ハ講演會ヲ催ス但理事會ガ必要ト認ムルトキハ臨時之ヲ開催スルコトヲ得

例會ニ於ケル議案其他ノ事項ハ理事會之ヲ會員ニ報告ス但緊急事項ニ付テハ此限ニ在ラズ

第十八條　本會ノ會計ハ春秋二季大會ヲ擧行ス

第十九條　本會ノ行フ事業左ノ如シ

一　建築ニ關スル講話並事項ノ調査研究

二　建築ニ關スル重要事項ノ諮詢

三　決議事項ノ實行促進

四　會誌ノ發刊

五　建築ニ關スル圖書ノ刊行

六　建築ニ關スル講演會ノ開催

七　建築ニ關スル展覽會ノ公開

八　建築ニ關スル視察

九　建築ニ關スル有志者ノ親睦會

十　理想的建築ノ計畫

十一　其他建築ニ關スル有益ナル事項

十二　會員ハ會費年額金指八圓ヲ本會ニ醵出ス

第二十條　但例會ニ出席シ難キ地方在住ノ會員ハ會費ハ半額トス

一時ニ金貳拾圓以上ヲ出ストキハ翌後前項ノ會費ヲ免ス

會員タルノ承認ヲ得タル者ハ入會金五圓ヲ本會ニ納付スベシ

特別賛助員ハ特別賛助員年額金九圓ヲ、普通賛助員ハ普通賛助費年額金六圓ヲ本會ニ前納スベシ

但六圓以內ニ之ヲ分納スルコトヲ得

第二十一條　本會ノ經費ハ會費入會金寄附金賛助員其他ノ收入ヲ以テ支辨ス

本會ノ財產ハ理事長之ヲ監理ス

第二十二條　本會ノ財產債權債務及毎月ノ收支ハ主計其計算書ヲ作リ翌月理事會ニ報告ス

本會ノ財產債權債務及毎年ノ收支ハ理事會其決算書ヲ作リ翌年一月例會ニ於テ報告ス

第二十三條　本會及本則ニ關スル詳細ノ事項ハ例會ノ決議ニ依リ之ヲ定ム

第二十四條　本則ハ例會ノ決議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得

『建築と社會』定價改正

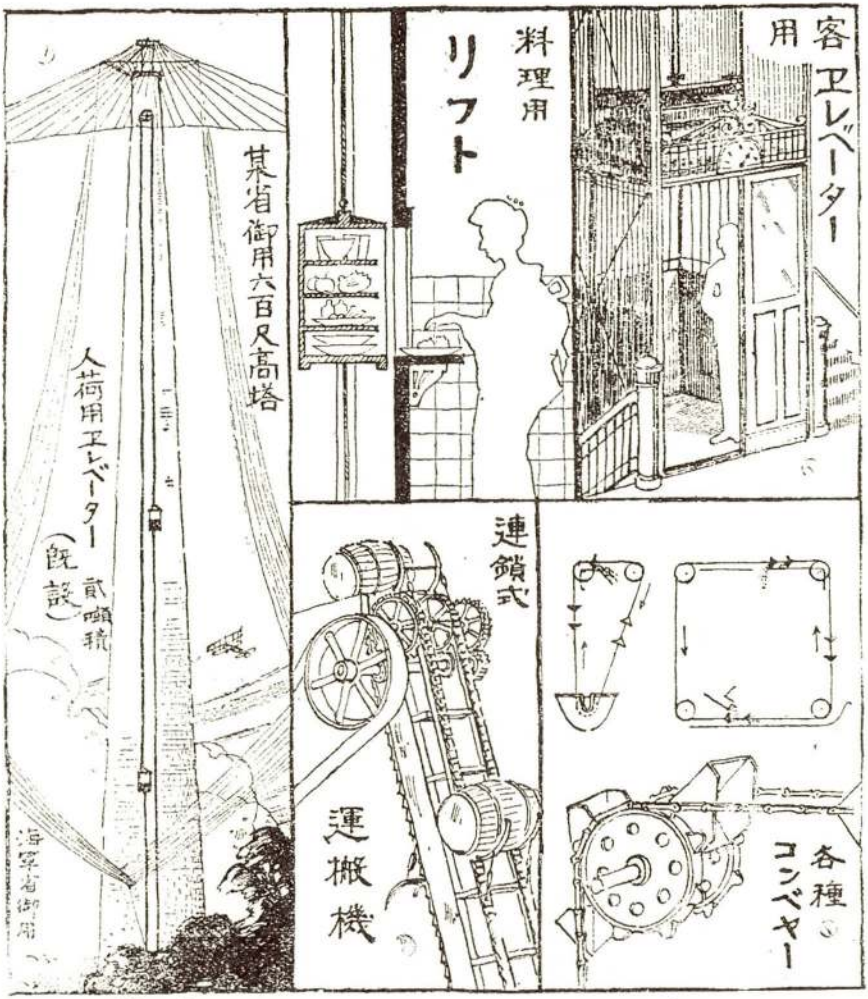
號より號を追ふて、茲に七箇年以來、內容の充實と洗練と、體裁の改善と進歩に多大な努力と犧牲を拂ひ來つた我誌『建築と社會』は幸に讀者の少なからざる共鳴を得まして、今や我建築界に——と云ふよりも寧ろ我社會に權威的地歩を得ました事は、寔に我協會同人等の欣幸とし多謝する處でムいますが、他面にはそれと共に少なからざる經費を要することゝ成りまして、今や從來の定價を改正せざるべからざる機途に迫られて居ります、仍つて從來の一部定價五拾錢也を本號より七拾五錢に改正致しました、就いては、本誌がそれだけの努力を拂つてゐることに御賛同被下いまして、一段の御眷顧を希ふ次第でムいます。

大正十二年六月一日

日本建築協會

本邦エレベーターの權威

（專賣特許六件）



日本エレベーター製造株式會社

本社　大阪市東區中道川西町　電話東二三二六〇八三七五番

出張所　東京市丸ノ内海上ビルヂング六階　電話丸ノ内二二〇二番

◎製品營業　エレベーター、コンベヤー。エスカレーター其他捲揚機械設計製作
リフト、ケーブルカー、ホイスト



建築と

第六輯

口繪　神戸市に於ける某氏の新邸

〔巻頭〕

▼建築史を貫く流れ……工學博士・武田五一・二

〔論說〕

▼クリストファ・レェン卿を憶ふ……楠原祖一郎・七

▼住宅政策論(上)……藤田組總務理事・坂仲輔・三
——貧乏人と住宅問題の結論——

▼國力の增進と建築……在シャトル マスター・オフ・セオロヂー・江村寛一・八

〔研究〕

▼田園村落……加藤善吉・二四

〔住宅〕

▼青島の住宅……石川呉服店主夫人・石川しま子・三二

▼住宅を解放的に……



社會

第六號目次

〔都　市〕

▼初めて見た倫敦(上)……法學士・小川市太郎　三八
▼進め過群より花園へ(五)……都市計畫技師・大屋　靈城　四二

〔講　演〕

▼エレベーターに就いて(下)……工學博士・堀　覺太郎　五〇

〔資　料〕

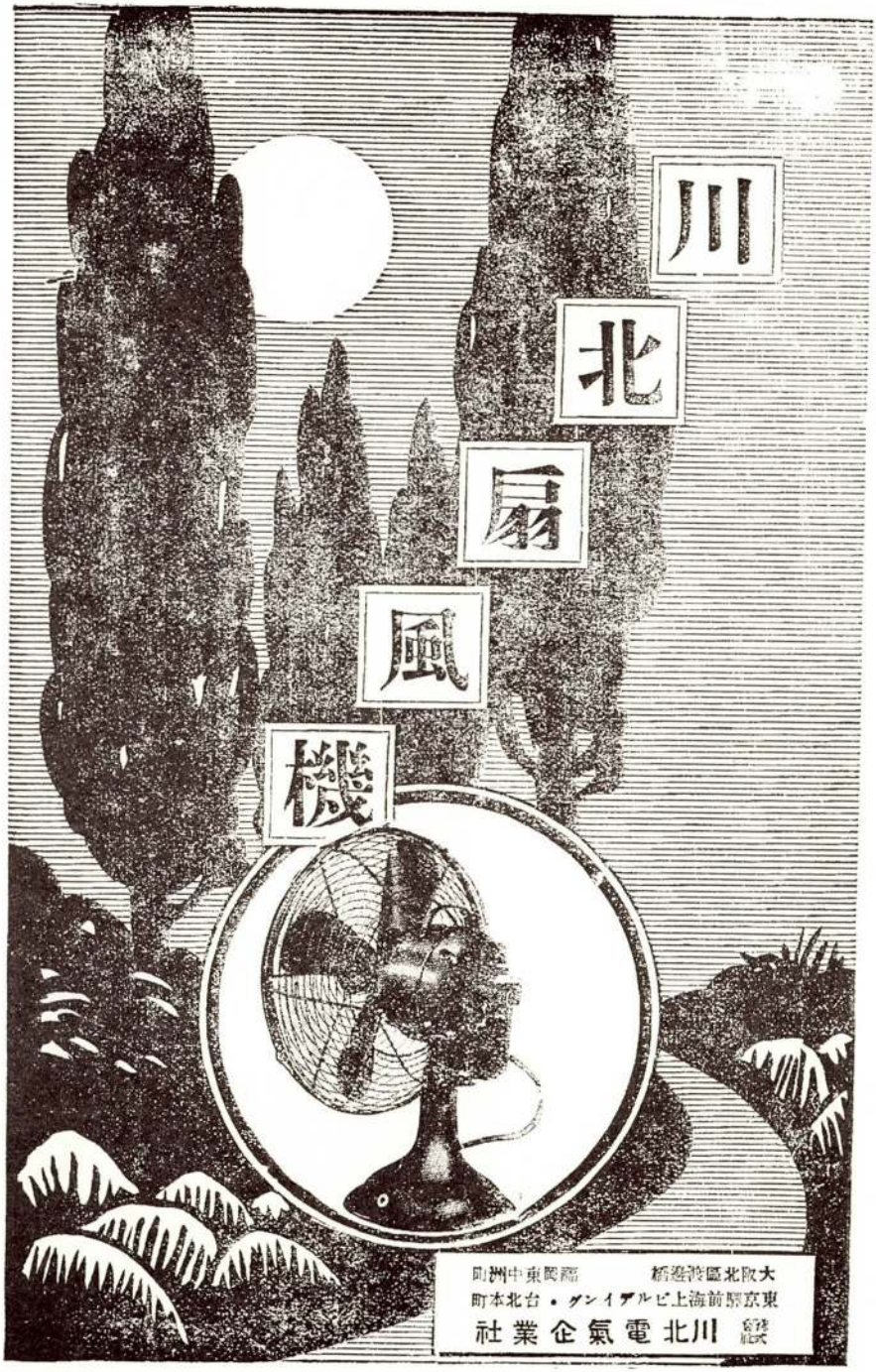
▼家賃はどうして昂る?……玄　黃子　五六
▼大阪土木建築業組合の決議……一　記者　六四

〔漫　錄〕

▼東京建築だより……文學士・黑田　鵬心　六五
▼滿鮮雁信……波江悌夫　六八
▼北米の一角より……天涯漂人　七〇
▼ペランダに兀りて——思ふことども——……郊　邨　八一

〔會　報〕

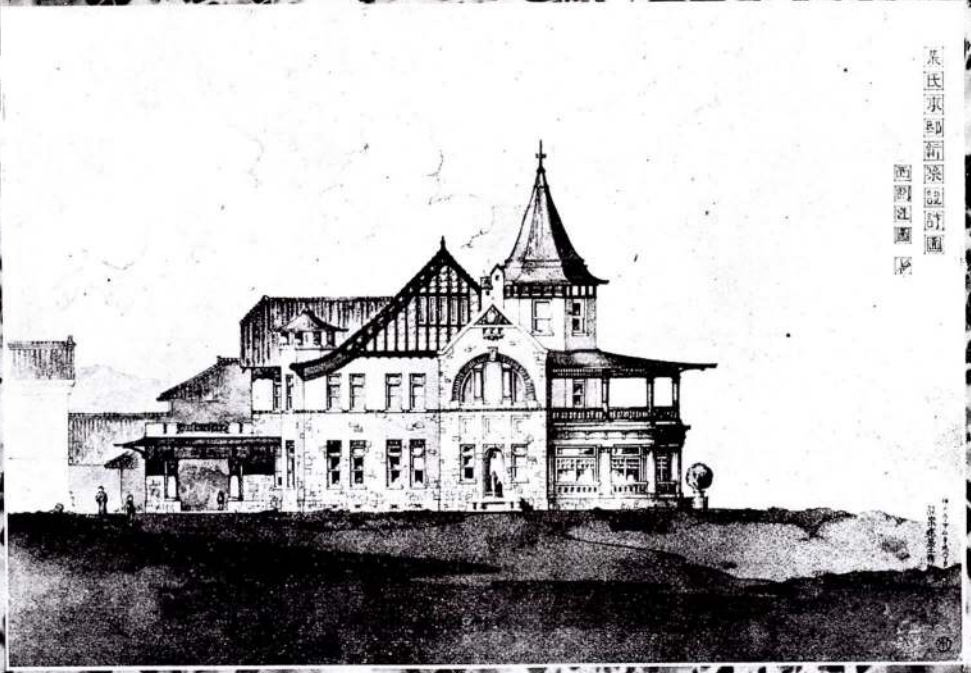
▼日本建築協會五月中記事


川北扇風機
大阪北區曾根崎
東京丸ビル前
上海南京中路
滿洲中央銀行
株式會社 川北電氣企業

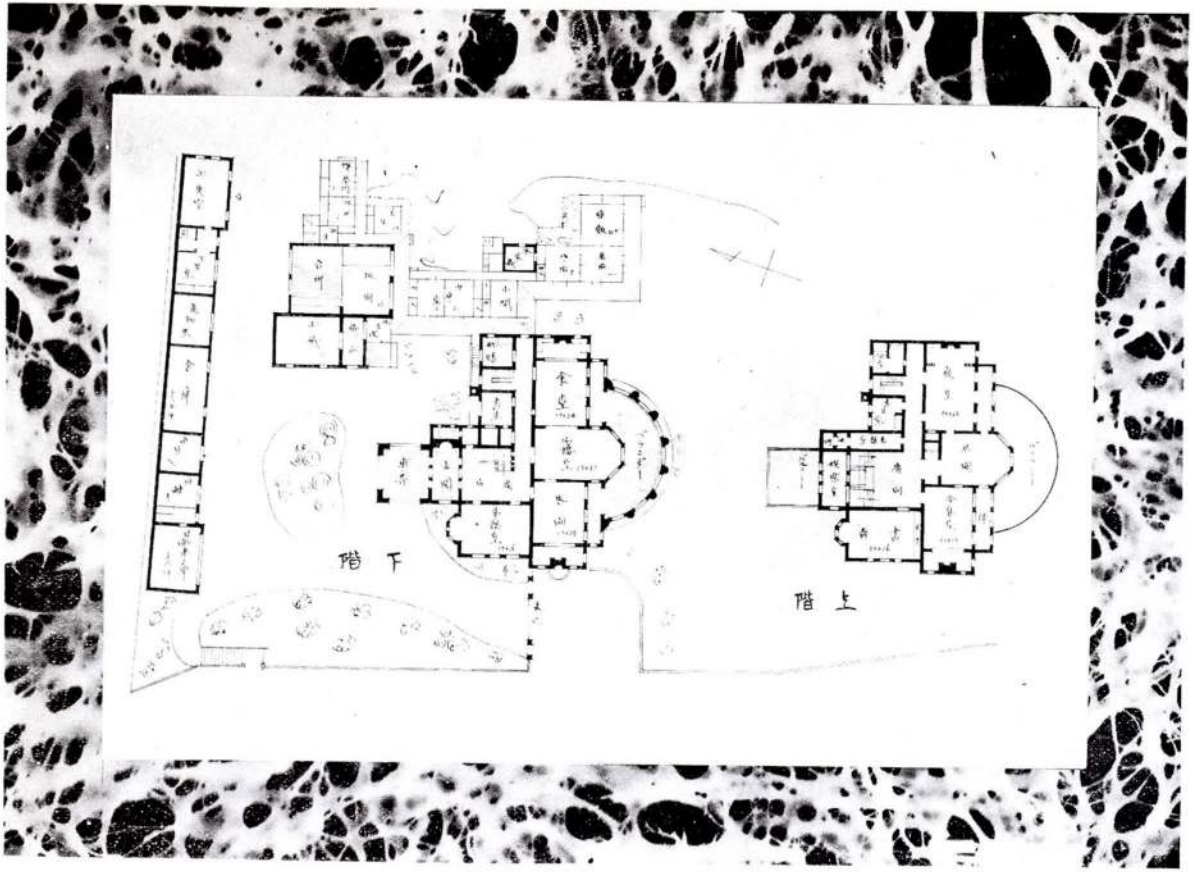
神戸市某氏の新邸

総建坪　三百三十九坪

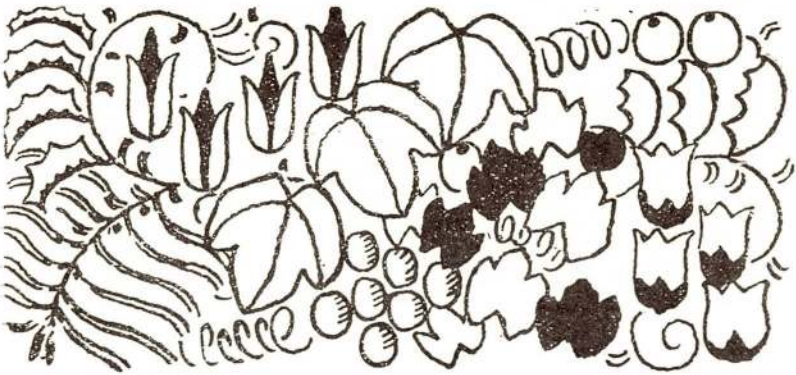
内譯　本館洋式煉瓦造　一四四坪　日本座敷木製　八二坪
倉庫臺所鐵筋コンクリート　四三坪　附屬家鐵筋コンクリート　八三坪



▲洋式本館は煉瓦造屋根粘土瓦外部壁面は色素入セメント塗腰廻リ鐵平石張南側丸形ベランダ階下石造二階極手摺ブロンズ製屋根塔屋共銅板葺室内床寄木張天井木製枠建具階段等チーク製地下の一部にボイラー室を設く▲附屬日本家は居間座敷廻リ總檜作リ内女關中室廻リは桐材茶室隱居所廻リは杉北山丸太面皮作リ臺所土藏衣裝藏等は鐵筋コンクリート造リ▲附屬倉庫自働車庫等は鐵筋コンクリート作リ

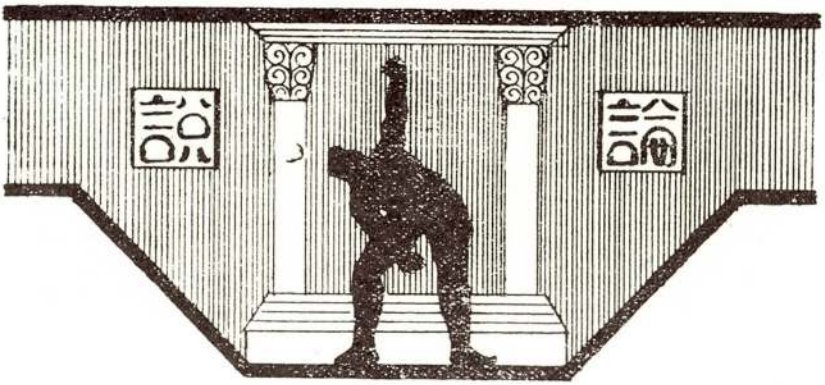


二　の　そ



建築史を貫く流れ

「凡そ明かに判別される二條の進路が凡ての藝術史を貫いて居る。一つは習慣から勃興した藝術が、實際の感じ、認識的の事物、人生の種々相、の直截な表現へと變つて行つて居ることで、一つは其れが再び滅亡し、碎けて千々の形式と成り、其の形式が時の流れを漂ふて、未來の藝術的表現の材料となることである。」建築の手法や、様式なども、縦むばそれが純粋藝術でないにしろ、藝術としての素質を多分に具有してゐる限りに於いて、亦斯ういふ二つの傾向から産まれて來るであらう。況して、建築を綜合藝術の一つだ、と謂ふに至りては尚ほ更らな事である。世界の建築史を乗つて、その歴史を貫流してゐるものを凝ツと眺めたならば、斯ういふ發見をするではあるまいか。（郊）



クリストファ・レエン卿を憶ふ

工學博士　武田五一

斯の一編は、勿論、直ちに採つて策論と做すべからざるも、歴史は事件にあらずして、價値そのものなりとの見地よりすれば、今や我國の都市計畫の着々實行されつゝあるの秋、斯編に據りて學ぶ處は、亦一箇の建築政策そのものなる事を否み能はざるなり、蓋し、此處に掲載して、我都市計畫の遂行に一箇の顧照を供する所以也――編輯者

大正十二年は近世建築史上に特筆すべき一大偉人たるクリストファ・レエン卿の沒後二百年に相當するの故を以て、其生國英國は云ふも更なり、米佛伊の諸國に於て其記念祭を行ふたと云ふ報に接した　英國に於ては卿の一大業跡たる聖ポール寺院内の其墓石の上に於て、著名なる建築家各國の公使、其他知名の士によりて盛大なる式典を擧げられた、と傳へられた。

今や、歐米諸國は、大戰の瘡痍未だ癒へず、國家の經濟狀態亦未だ回復せざるも、鋭意都市の回復建築物の整理に全力を擧げて居り、英國に於

ては、一大國策として、現に不足せる住宅の補充に就いて蕉慮して居る。我國に於ても、古今未だ曾てなき大規模の都市計畫を、巨億の費用を投じて斷行せんとするの秋、彼の有名なる倫敦市大火後の都市計畫の創案者たるレェン卿を追懷するは、亦何等意義ある如く思はれる。レェン卿の此大々的都市計畫は不幸にして、時利あらず、竟に其實施を見るに至らざりしも、其後幾くもなく、巴里市、ワシントン市シカゴ市、其他大都市の都市計畫の模範と成り、我國の都市計畫も、廻り廻りて其範をレェン卿の考案に準じて居るとも云はれないことはない。

レェン卿沒後二百年の追悼會は、本年二月廿六日午後二時三十分、聖ポール寺院地下室の卿の靈が靜に眠つて居る墓石の上に行はれた。英皇立建築學會々長ポールヲーターハウスは、龍動市長、龍動學士院長アストン ウェッブ、佛國中央建築學會代表員オーギュスタンレイ、米國紐育建築學會代表者カンドラーコップ、其他名士列席の中に、紫の天鵞絨にて結ばれたる橄欖の花環を墓上に置き、オーギュスタンレイは佛國建築家の名に由て、此大技術家大市民並びに大詩人たるレェン卿の爲めに、靑銅製の椰子の葉を飾り、カンドラーコップは、同じく花環を呈して左の如き追悼辭を述べた。

世界の建築史上に一轉機を齎し米國コロニヤル式に大影響を與へたる大建築家クリストファー・レェン卿の光榮ある記念の爲に、紐育建築學會は茲に花環を作り米國大使ジョージハーベー之を墓前に捧呈す。

憶ふに、レェン卿の生涯は、建築家として特異のものである。其境遇、其好機及其建築長生は、卿をして一世の一大事業を成就せしめたのである。

卿は、一六二三年敎養あり品格ある家庭に生れた。其叔父マシュー、イーク寺院の大僧正にして、其父はウヰンレゾル城の副僧正であつた。卿十七歳のときチヤーレス王は斬首され、廿八歳のとき大革命は勃發した。

卿は、十四歳にして牛津大學に學び、當時斯くの如き不安なる社會狀態の中に、孜々として古典學、天文學、數學其他の科學の研鑽に沒頭して居た。之等の學術は、建築學とは直接何等の關係なきが如きも後年彼が大事業を遂行する際に於て、高き常識にして大に役立つたことは意想の外であつた。卿は廿五歳にして倫敦グレシャムコレージに天文學の講師と成り、次いで、牛津大學の天文學を講ずることゝなつた。卿の叔父は、十八年間の監禁の內に倫敦塔內に死し、卿の父も亦坐せられて死刑となつた。斯く一家不幸の內に在て、卿は一日も研學を廢せず、次いで、彼は、偶然、當時の工務卿たりしジョンデンハム卿の助手に任命され、初めて建築家たる第一步を印する事になつた。當時、卿を評する者は、卿を建築家たるよりは寧ろ詩人の素質ありとも云ひ、又非凡なる記憶力、銳敏なる觀察力及徹底せる理解力を有する若者なりとの評もあつた。孰れも建築家の素質としては欠ぐべからざるものであるが、彼れに缺けたるものは唯正式なる建築學の敎育のみであつた。

建築學の敎養なくして建築家たる素質と常識とを豐富に含蓄せるレン卿の最初の作品は、其叔父なる大僧正の爲に試みたるペンブロークホールの敎會堂であつたが、直ちに其れに次いでオックスフォードにシェルドニヤレ劇場及び倫敦の古き聖ポール寺院の修築等に從事し、其間、卿は、一六六三年に皇立學會を組織して、英國の宗敎と富と威嚴とを增進する事に努力し、其會の事業としては、食糧問題、動植物の產業的研究、國民衞生問題、醫療問題及機械の發明等極めて多方面の研究に從事して居つた。如何に卿の智識の多方面なるとは、之れを以ても知る事が出來る。由來、英國民は斯の種の豐なる常識を有する者が多いけれども、卿の如きは其最も優れたる一人である。

一六六五年に、卿は佛國巴里に遊んだ。其當時、ルーブル宮殿が丁度建築工事の途中であつて、其見學は、建築家たらんとする卿に取ては得易からざる收穫であつた。既に充分なる素養と、基礎智識と、高遠なる常識とを有ち、且つ多少實際的の經驗ある卿は、異常なる興味を喚起したことは疑ひなき事實で

あつた。蓋し、巴里滯在中の日記の一節に左の如きページがある。

毎日少くとも千人を下らざる職工は現場に働いて居た或者は巨大なる驚くべき機械を以て基礎工事用の石材を吊り下げ或者は偉大なる石柱石蛇腹を据へ付け石壁を積み又或者は大理石の彫刻象眼細工或は漆喰細工壁畫工事或は裝飾物の箔押に從事して居た之等種々なる建築的加工を一現場の内に見得ることは其當時に於ける歐洲中の最も完備せる大學と雖も出來得ざることであらう

婦人は佛國でも巧みな言葉と新流行とを考へて居る外に政治にも哲學にも口を出し建築の方にも相當意見を有て居るようであるが建築だけは流行品と違ふて永久性を有て居るものであるから婦人連の希望通りに行かない部分もある

卿は、巴里で伊太利のベルニニ、佛のマンサード・ポー・コベルト等の大建築家に交遊し、彫刻家のアンギュイエールサラジン及ペロー等にも、又畫家工藝家の第一流の人々にも親交を結び、充分に建築に關する工藝の常識の涵養に努力した。之等の技術の實地の手工には觸れざりしも、其工程を充分に呑み込むことは、建築家の修養としては缺ぐべからざるものであることは、云ふまでもないことである。

翌年一六六六年、卿は巴里より歸りて間もなく、怪火が倫敦市の一隅に起り、殆んど二晝夜に亙りて全市を燒き盡してしまふた。斯の時、卿は、三十六歳にして、精氣内に溢れ、充分なる手腕と自信と信用とを有つて居た。故に、其大火の跡を整理し、再築し、併せて多年の懸案たる聖ポール寺院の大修築を完成すべき使命を帶びさせられるに到つた。茲に、卿は、龍動市再築主任技術者と成り、聖ポール寺院と其他五十一の倫敦寺院を再築すべき大任を負ふべき位置に至つた。

レェン卿の斯の時に立案せる龍動都市計畫案は、殆んど近代都市計畫の基礎と方針を確立せる觀があつた。即ち、耐火構造の防火地帶、廣き街路、主要街路の選定、公館中心の設定、主要なる建築物を孤立せしむる事、危險物取扱工場地帶の設置、運河の開鑿、都市建築物美觀の調和等、凡ゆる智嚢を傾けて

其計畫案は立てられたが、それには、箇人々々の利害關係より打算せる反對論に累されて、終にそれを實現し得ざることゝなつてしまふた。聖ポール寺院の計畫に於ても、亦同樣の困難に遭遇した。

卿の案は、伊太利復興式を採用せるが、英國民の多數は、其國の誇りとする峨峙式に非常なる執着心を有し、卿の案に對して、屢々苦々しき批評を加へるに至つた。遂に、卿は、「出來得る限り峨峙式に近寄らしむることに努むる」と云ふ條件にて計畫を進め、工事に着手した。

斯の條件發表には、卿は決して模型を作らず、圖面を公表せず、默々として工事の進渉を樂んで居た。卿は之れ等、無理解なる批評の爲め必要なる用務を妨げられることにて、漸くにして免るゝ事を得たが卿の意は毫末も初志を更ふることを好まず、嚴として伊太利復興式を採用した。斯の時以來、卿は非常に多忙なる生活に入ることゝなり、爾來チャーレス二世、ジニームス二世、ウィリヤムの三王、メリー及アンの二女王の時代を經て、殆んど卅五年間孜々として聖ポール寺院の建築に從事した。彼れの俸給は、其時一箇年二千圓なりしを、工事の進行遲々たるの故を以て、屢々委員會の爲めに減俸せられんとするの厄にも遭遇した。遂に、一七一〇年、卿の齡七十八歲の時、其子及助手ストロング氏に依り、卿の面前に於て、聖ポール寺院最頂上の石が置かれた。斯の時に列席せる副僧正ミルマンの手記に據ると

『聖ポールの塔上より見れば一方に聖マリールボウの尖塔他方には聖ブライドの尖塔が其優しき輪廓を見せて居る遙向ふには聖ダンスタンインフキールド寺グリーニッチホスピタル其他の美しき夢のよふな塔が霧の內に現はれて來る、之等の塔も建築も何れも建築として養成されずして時世の要求に由て止むなく建築家となり而も歐州の建築大家と肩を比べて毫末も劣る所なく後世幾多の建築家と雖恐らく其壘を摩することの出來ない一偉人レェン卿の空想より生れ出でたるものである』

一七一四年、アン女王の跡を卽ぎたるジョーシ一世は獨逸より來り、其幕僚の中傷に由てレェン卿は其職を去るの止なきに至りたるも、卿は尙建築の事業を捨てず、終に一七二三年二月廿六日の夕、平和なる食事後、其光榮ある椅子の上に、眠るが如く永久の天國に去つてしまふた實に其齡九十歲であつた。

住宅政策論（一）

——貧乏人と住宅問題の結論——

楠原祖一郎

△本論文構成の諸項目

第一項　住宅の沸底と急造家屋
第二項　急造家屋の文化的價値
第三項　文化價値と貧乏人の住宅
第四項　急造家屋の防止と都市の住宅行政
第五項　結論

はしがき

予は本誌第五輯第十二號並びに第六輯第三號に於て「貧乏人と住宅問題」に就て、政策論の豫程的論述を試むる所あり、其後更らに結論として、住宅行政論を取扱ふ筈なりしも、時日無りし爲め本號に於て是れを取扱ふ事となつたのであるが、便宜上タイトルは是れを「住宅政策論」として置いた。然し別に新たなる論述を試むるに非ずして、前二者に於て試みたる論述の結論と爲すものである。

第一項　住宅の沸底と急造家屋

予は前々號に於ても論述せる如く、一般住宅の沸底は必然的に、急造家屋の建設を齎すものにして、而して如斯急造家屋は、何等かの樣式に依つて、一定の目的の下に建設されたるものに非ざる限り、將

來一個のスラムとして存在するものとなるのである。

是れが實例を一二擧げんに、大阪市外に於て其の例證を求むれば、南方面に於て、今宮町の街區は、近來著しく諸種の方面より考察して低下し、其の社會的價値又減損されつゝあり、予の記憶に非ざるも先住の士の記憶に依れば、甚しきに到りては建設後三ケ年を經過せざるに、已に家屋の諸所に破損個所を生じ、住居そのものゝ文化後價値を滅失し、一個のスラムとしての外形を帶ぶるに至れる事實を見る又天王寺村主として東天下茶屋と稱する地區は、土地高層にして空氣清澄なるより住宅地域としては、市の近郊に於ける最適地なるも、是の地區に建設されたる家屋の多くは、何れも一夜造りの粗製住宅なるを以て、何等の文化價値を見出し得ざるのみならず、其の裏通りの如き、一個のスラムとして待遇すべきものである。更らに東方面に見るに、近時鶴橋町方面に於ける家屋の建設數は日を趁ふて激甚となり、トンネル式平家造りの家屋を見出すを得、更らに東に足を伸ばして、足代方面に迄此のスラムの擴張されつゝある現狀である。西及北に至りては、ファクトリーの數多く、住宅地域として見るべきものなきも、然かも尙職工に貸貸すべき目的の下に、低濕なる土地に新築家屋の續出するを見る。

如斯現象は、予の見る所に依つて說明する迄もなく、今日迄先賢の士の幾度か論述せる所なれども、論者は何れも同一傾向を採り、等しく建設當事者の不誠意を指摘せるものにして、予の如きも又此の事象を以て建設當事者の鋭き營利の觀念に依つて、如斯スラムの現出するものなる事を意念するものである。

大戰中好況時、各人の經濟的地位が甚しく向上し、それに伴ひて各人の社會的戀望の增進に依り、農村生活を放棄して都會に集中せる人口の、過剩が直ちに住宅に反映して其の沸底となり、又家屋の改廢等大いに行はれ、資本家にして遊資を家屋建設の事に沒するもの續出し、場所の適否、建設後居住すべき諸種の條件等に關しては、何等意念する所なく、無定見無計畫の下に、貨幣と家屋を交換するもの多

かりしが爲め、今日如斯結果を見る。豈心あるものゝ思ひを是れに臻さゞるものなけんやである。

然して目下に於ける是等の狀勢如何、勞働者は失業後生の安定を農村に見出し、耕農の間に生活の資を求め、財界の不況は資本家階級に或る脅威を與へて以て、其の濫資を杜絶せしめ、惹いて粗製家屋の新興を企るに由なき爲め、共存家屋は益々荒廢し、急造家屋の本性は餘りにも露骨に表白されつゝあるものである。

第二項　急造家屋の文化的價値

凡そ吾等の日常生活に於て、何を尤も必要とするか。そは明かに吾等の意念する所を、其の所爲に具現する事である。換言すれば、吾等の行爲の內に自己を見出す事である。日常生活が、何等の文化的價値を有せずてふ事は、そは即ち日常の生活そのものに、自己の意念せる所と具現する能はざる時に於て、發せらるべき言葉である。吾等の生活に文化的意義を見出し得ざる時、吾等は果して何に依つて、是れを補塡せんとするか。即ち吾等は不本意ながらも其日の生活を送る時、其處に文化的意義を有すると云ひ得るや、予の見る所に依れば、自己の生活に文化價値を有すると否とは、生活そのものに自己の藝術として、何等かの具體性を有せるや、否やにて分るゝものにて、從つて吾等のライフ、ヒストリーに於て、それを通じて自己の欲する何等かを或る藝術にてより強く表現し、又得たりし人を以て幸福なる生活、即ち文化價値を有する生活を續け來りしものと云ひ得るのであるが、さて予が如斯文化的生活の意義を索めて、而して後急造家屋に住居せる人々の生活に、如何に是等の粗惡なる家屋より受けたる色彩の含まれてゐるかを見んとするものである。

惟ふに吾等の家庭に於ける、其の心理狀態は常に一定の關係に置かれてゐるものではない。吾等の懇

望が常に擴張し進化する如く、それに伴れて其の心理狀態も擴張し進化に伴ふものである。或る他の文化生活と見るに於ては、それを模倣し、可及的それを實現する事に努力するであらう。又或る他の即ち自己の意念せざる生活形式を見るに於ては、可及的如斯生活形式を採らざる樣う、努力するであらう如く、常に自己の懇望の開展に從ふてその心理狀態は推移するものである。此の心理狀態より推論すれば吾等は自己の欲せざる生活の形式を採る時、そこに何等の文化的意義を見るを得ざるものであるが、今吾等は、自己の居住する家屋に如斯感を抱懷しつゝも、それに居を有する時、そこには完全なる文化を建設し得るであらうか。予は是れに答ふるにノーを以つてする事を躊躇せざるものである。素より貧乏人が自己の經濟上の地位を顧みずして、大廈高樓を望見して、かの家屋は文化的價値を有するであらうが、かの家屋に住む事を得ば、自己の藝術をそこに見出し得るであらう事を考ふるに到るとも、そは今日の經濟組織に立脚する社會の狀態に於ては、何等の意義を有せざるものにて、予の云ふ所の文化的價値とは斯くの如きものをさして云ふに非ず、先づ自己の經濟上の地位に於て、即ち其の範域内に於て實現せしむるを得るものを以て、稱するものなれば、蓋し是れが慾望を充足せしむるを得る範圍にて、指稱し得るものである。

急造家屋とは、予は再三述べたる如く、猫額大の空地に木石を用ひて、何等の計畫なく立體的に空間を顚充せるものを云ふのであるが、然し素より家屋建設の當初は、貧乏人の巢窟たらしむべく、建設したるものに非ざるも、一夜造りの家屋なるが故に、そは必然的に或る機會に到着せば、一種の貧民窟となり變るものである。這ふした家屋に如何程の考慮が費されてゐるか、そは論ずる迄も無き事にて、そこに文化的價値なるものを素より見出し得ざるものである。

凡そ家屋の建設には、常に一定の考慮の拂はるゝものなる事は、這は極めて明白なる事にして、同じ定額の建設資金を持ち、一定の計畫の結果に基きて建築せる家屋と、而らざるものとの價値上の差異は

その結果に就て見るに決して金錢上にて評價し得ざるものである。而して予の云ふ文化的價値とは、決して單なる住居に依る氣分の上の問題に非ずして、如斯急造家屋に居住する時には、予は前號に於て論述せる如き、諸種の惡結果を見るものにて、惹いて文化價値を見出し得ざる事となるものである。

以上述べたる如く急造家屋なるものには、如何なる方面より觀察するも、その文化的價値を見出し得ざるものにて、急造家屋に過群なる生活を續くる所に、初めより文化價値なる語は發生せざるものにて予は如斯生活狀態を目して、是れを個性を滅殺する生活と云はんとするものである。されば吾等は斯くの如きものに向つて云はんとする所は、「住むべき地に『自己の芽生を認むる迄』文化觀念を發達せしめよ」と云ふに在り、自己の境地に自己の藝術を建設する意圖を以て、急造家屋に文化價値上の判斷を爲す時、そこに、一個の空虛なる非自己的なる、非藝術的なる、立體が或る空間を無雜作に埋めてゐるものを示すに過ぎないであらう。（未完）

六月や忘れ花咲く

柵の藤

松の蕊皆伸び足りて

夏來り

國力の增進と建築

藤田組
總務理事　坂　仲輔

『大洋の表面は決して靜止せぬ、併し大洋を進化してゐるとは考へない。狀態の不斷の繼起は何所にも達せぬ、現に見る表面は千萬年來變らぬ。社會的變化も亦同斷か、或はこれには變化の法則があるか。一代二代或は一世二世と史上の短期間を採れば、何ものも發見せず、見た所無意味な千滿と思はれるかも知れない。併し文明の運動の大畿曲を考へたら、社會は發展してゐるとの感を懷かざるを得まい、進歩といふ考が奈何しても起つて來る。これは是認すべきである。——進化とは、當初匿れて居る性質の現出である。增大以上だ、洪水や雪崩は增大する。而して進化しない。簡單より複雜への移動以上だ。有機體に進化する原形質は、吾人が其驚くべき複雜を洞察出來ないから、簡單に見へるだけだ。——進化は內的過程に依る性質の實現を意味する。彫刻家が線に刻む石切れは、進化しない、外的過程が型付けられたのだ　進化は、內的性質即ち性命の環境內に於ける充足である。——アリストテレスの云ふように、事物は前段から後段に段々到る。而して後段は、前段よりは、より充分に、そのものである。有機體の進化に於てこれが見られる。成熟は、完成だ。それがあるべく求めるものゝ完成である。社會の場合には成熟と云ふことがないから、進化の概念はもつと六ヶ敷くなる。それでも、吾人は社會のいろんな段階を驗査する程、社會の意味がよく解る。意味が變化の過程を通じて完成さるとすれば、社會の進化と云ふことが云へるわけである』

以上は、マッギヴア教授の The Elements of Social Science の一節である。例のスペンサー氏の如きも、社會を『我等個人と同樣に有機的生活體と看做して、その絶へざる進化を云つて居る。凡そ國家そのものでも、市町村の如き團體にしても、一家、一個人としても、それが生活體たる以上は、それが、必ず內的に發展して、形態的と新組織を伴ふ增大を以てする。それが進步であり、進步は凡ての有機體を支配する原則である。之を端的に觀て、所謂國運隆替にしても、亦國家社會といふ有機體に於ける進化の內的現象である。前記のマッキヴア教授も、『社會は文明の方向に前進するが、また野蕃の方向に後進するかも知れない』と、變化の過程が進化であり、この誤謬に陷ることを指摘してゐるように、國運も、進化なければ、其處に、只、衰頹といふ厭ふべき變化あるの外はない。

仍で現在の如き、國家なる有機體が、互にその生存を競ふ中に於て、國家の生活を十分に充たして行むとするには、出來得る限りの方法を講じて國本に培ひ、その力を涵養する事が勿論その第一義であらねばならぬ。而して、その國力を計査するには、素より種々なる方法の有するであらうが、政治の見地より國力の多寡大小を比較する處の一等手近かな標準は、國家の富そのものでもなければ、貿易高の示す計數でもなく、實に、人口の多寡そのものに係つてゐる。換言すれば、人口は國家の實力を釀成する處の酵母である。又、之を逆に云つて、少くとも進展力の弱い國家には、人口が繁殖しない。勿論、斯の原則?には多少の例外はあらう。例へば、支那の如き、その尤も大なる人口と土地とを擁し乍らも、國としての形態を整へてゐない處もある。けれども、大體から云はゝ、國家の實力を計量し比較する基調は、人口の多寡そのものに在る、と謂ふも、決して過當ではない。現在露西亞の衰退はアノ通りであるが、是れとても、その尨大なる人口と國土は、所謂勞農露西亞の赤い思想そのものを別としても、當に怖るべき將來を有してゐる。その他、地球上到る處に植民地を有して列强に呼號してゐる英吉利にしても、濠洲たること元氣そのものゝ如き國運の狀態に在る亞米利加にしても、幸ひに我國をも加へて、

地球に睥睨せる三大強國として容さるゝ所以のものは、現に見るが通り軈もが多大なる人口を擁してゐることに係つてゐる。されど、吾人は、必ずしも人口の饒多といふ事實のみを以て、國力の涵源とする譯ではない。再び支那の現狀に顧ても、勞農露西亞の事實に觀ても、乃至は、ポーランド抔の國狀に質しても、人口の尨大若くは多數といふ事のみが、必ずしも國力の發展を識るの目標とはならない。吾人は、是れに遺るべからざる一つの條件ある事を見逃してはならない。それは、實に、國民の元氣、民衆の活動奈何といふことに在る。卽ち、一言にして竭さば、人口多くして、その活動力も亦旺盛、といふ一事に在る。要するに、斯くなければ、國力を充實してそれを發揮することは、到底、望み得ないのである。吾人は、斯の見地よりして、それを種々な關係に牽聯せしめて考察することが出來得る。換言すれば、斯る問題は、國家社會の凡ゆる生活上の基準なるが故に、斯の原則は、諸多の方面に於て考へ得る。吾人は、今此處に、我國に於ける建築問題を省察せむとするの前途を有してゐる。されば、件の國力充實若くは國運の發展といふ側より、姑く我國に於ける建築の關係を考へてみたい。

日本に於ける建築は、まつたくの處、今は極めて動搖場裡に在る、と謂つて差支へない。之を感傷的な言葉で謂はゞ、將に新しい歸一せるものを產み出さむとする呻吟中に在る。卽ち、『產みの苦み』こそ、日本の建築界に於ける現狀ではあるまいか。或時間若くは幾世代の後、その產まるゝものは、果して怎麼ものであらうか。全然新しいものであらうか。或は在來の素質を多分に有つたものであらうか、乃至は、全く歐米種に變つて了ふであらうか。家は、その國民慣習の象徵であり、個性の發露であり、歷史の化現である、とも謂ひ得るから、その產るゝものは、素より我國民性と國土に餘程制限（コントロール）されたものには相違あるまいが、その大體の輪廓（アウトライン）を云はゞ、歐羅巴風の素質を多分に有つたものが可い、と希望する。

日本の從來に於ける住宅建築は、南洋と支那、朝鮮或は蒙古風を折衷したものゝように考へられる。

蓋し、斯る建築を馴致したのは、例の鎖國攘夷の思想の下に、東洋の一隅、所謂桃源洞裡の長夢を、生活そのものとしてゐた時代が、爾かあらしめたのであらうが、今日國力本位に國家社會としての競存場裡のものとしては、凡ての點に於て、就中、保健の關係から云つても、日常の活動的關係から觀ても、その他、經濟上の考から云つても、斯る建築は、到底、研究の上で出來上つたものだとは、何んとしても云ひ得ない。卽ち、從來の我建築物殊に住宅建築は、時處に支配された自然の流れに委せた儘のものであつて、其處に、大して研究と體驗の結晶を見出し得ないのである。故に、後者は前者を倣ふて、何か權威的な法則でもあるかの樣に、只、模倣と因襲と傳統に囚はれたに過ぎない。其處に、何等自價値の覺認、自己覺醒の產物はないのである。されば、我國人の將來、衣食住の中でも、先づ此の建築物を簡易にして快適な歐羅巴風に基本を置く事が、生活改善、隨つて國力の充實に於て必要である。蓋し、我國は、國家の富力と國民の經濟が、之を歐米のそれに較べて未だしと云ひ得る狀態なるに拘はらず、我國人の生活費は、恐らく世界に於ける優位を占めてゐる。物價の指數にしても、一時は、英米抔の百に對して百以上二百も、物によつては三百近くもなつてゐたのである。生活費の餘計に要るといふことは、必ずしも生活程度の高い意味ではない。卽ち、我國人の生活には無駄が多く冗費が少くない。第一衣服にしても、在來のように極めて不便と不利に甘ちを絕へさない日本式の住宅では、日本服も、常用着と外出用と禮服と云つた風に、二重にも三重にも服裝費を要する。而も、洋服をも用意して、是れとても、一通りのものは備へなければならぬ。斯くの如き服裝を中心として、その附屬物も亦種々に要する。例へば履物にしても、二種も三種も、下駄や靴を用意しなければならぬ。斯る煩縟と不經濟否な寧ろ一種の贅澤とは、多少程度の差こそあれ、一家の凡ての者が累はされ、その累はされることに少なからぬ金を費さねばならぬ、といふ頗る不合理なものになつてゐる。それが、例へば體力を增し營養を佳くするといふような健康を產む爲ならば、經費の問題は其處に不合理な關係を生ずるであるまいが、然

らすして、被樣な、殆むど無意味な事に金を費すように努力を餘儀しなければならぬ、といふに到つては、是れが國力に累せずして何ものか累するであらうか。元來、日本人は、歐羅巴人に較べて體力が弱い上に、收入も亦少い。その少い收入の大部分を生活費に要するため、殆むど蓄積の餘裕が無い。同時に、坐つて生活するよりして、仕事に對する意氣と、仕事の能率そのものが甚だ擧らない。歐米風に倚子生活となれば、仕事は順序よく活潑に運ばれるが、一旦和服姿の坐り込みとならば、右の物を左にする事さへ甚だ倦怠を覺へる。和服を被て袴を着ける、是れで仕事が氣持ち佳く運べたら嘘である。故に活動的ならしむるには、怎うしても、現在の衣服を洋裝とし、——少くとも洋裝化したものに改善しなければならぬ。けれども、その先決問題として、それ等凡ての生活を容れる處の『住ひ』そのものを洋式化することが大切である。即ち、取獲た收入を漫散しないようにする上から云つても、餘財を蓄積する側から申しても、建築は、先づ少くとも洋風の素質を多分に有つたものとしなければならぬ。維れ、嚮て、國富、國力の問題裡に包有された懸案である。

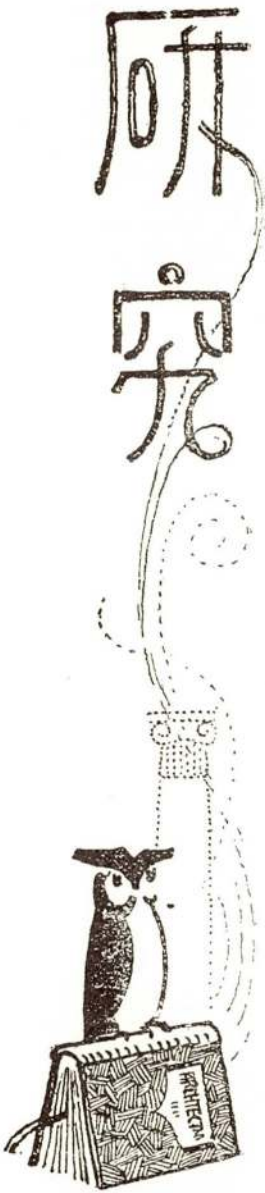
近來、我國の大概な都市附近では、中流以上の住宅は固より、極めて低い程度のそれでも、生活を要約して成るべく内を充たす、といふ思想の傾向から、歐米式の簡易な住宅建築を見受けるように成つて來たのは、寔に、國力の問題として欣ぶべき現象である。斯る傾向は、決して、法律の力に基づいたのでもなく、爲政者の命令が爾か成したのでもなく、實に、我國民の自省と、自覺に因つたので、將來一段と斯の自發に俟つの外はない。けれども、斯る氣風の涵養は、單に自然的なる歸向に委して成るのではない。其處に、その發芽を培養し、その幹身を匡め、幷が枝葉を扶けて立派なものに馴致する事は、國民の上に臨む爲政家の責任であると同時に、社會の上層に立つ者の率先して範を作るべきである。斯の事に就いて、吾人は端しなくも伊藤博邦公の事を思ひ出だざるを得ない。公が先代博文公によつて營まれたアノ廣大な邸宅を賣拂ふて、僅か二百坪許の敷地内に、さゝやかなる住宅を營み、女中抔をも

成るべく要せぬようにその生活を改善されてゐる事は、讀者と共にまだ記憶に新しい事實である。斯の一事は、單り伊藤公その人の問題でなくして、現下我國の住宅建築の改善則生活の改善が、大概な人達の心の奥底に響きを有つてゐる今、確に住き方向を示す處のものと成つて、その改善は軈て多くの人達のそれに意義を有つのである。されば、爲政家は、斯る問題に焦慮すべきであると同時に、社會の上層に在る人達も亦此處に省察されたい。

從來、よく、東西文明の調和といふようなことを聞くが、成る程東洋と西洋とは人種も異り、歷史も違ひ、勿論その境遇も亦同樣でないから、直ちに採つて、東洋と西洋とを同型に成すのは勿論出來得ない事である。されど、東西の兩文明を次第に調和し行く上に就いても、即ち、所謂採長補短の意義から云つても、例へば衣食住の事に於て、彼れの良い所を遠慮なく取り入れ、斯くして、其處に、我に醇化せる創造物を得て、我々の活動力を增すように方針を採るべきである。大體以上申述べた見地よりして吾人は、日本の將來に於ける建築殊に住宅建築は、歐米のそれに主要な範を採るべきであると憶ふ。蓋し、それが軈て、我國力に寄與する所以ではあるまいかと考へる。（文責在記者——郊邨）

入梅や
伸び過ぎ菊の
根分せり

廚窓



田園村落

在シャトル　マスター・オブ・セオロヂー　江村寛一

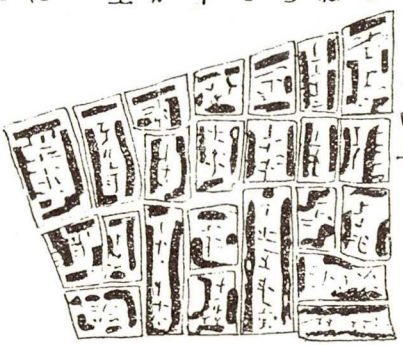
左の一文はアドルフ・ラッディング（Adolf Roding）が獨逸の都市雜誌 Der Stadtebou の最近號に寄せた一文であるが、目下日本でもチヨイ〳〵論せられつゝある田園都市の問題を嶄新な取扱ひ方をしてゐるものであると紐育市クラブの都市計劃委員會の議長フランク・ビイ・ウキヅアムスが推賞してゐる一文である。

若し土地の一大區域を、下い家屋を建てる建築敷地として分割せんと欲する時に、二の方法を採り得る。たとへば下水道をともなふ四條の街路によつて境界する方法がその一である。かうした地域では、その建物の占むる地區が小バーセンテーヂすむ（圖表四十四號參照）即ちその地域は網狀の街路で掩ふことが出來 そして全地域に擴がつてゐる家々を、その街路に沿ふて落ち着かせることが出來る。他の方法は四十五號の圖表の示す如き方法である。地域の端及び隅は、發展の順序によつて必要となつた中央に於ける附近と共に、共に

密集しあつた家屋をもつて掩ひ得る。そして地域の大部分は打ち開いてゐる。

分割の經濟上に於ける問題

現在の如き貧窮の狀態(獨逸)に於てゞあるのみならずどの建築上の企業でも左樣であるが、分割は第一に經濟上の問題として考へて見ねばならぬ。此見地から當面の問題を研究する時に、四十四號は四十五號に比較して道路がより長く隨つて下水工事費も著しく增加し、點燈費、推持費ともに嵩むでくる。それ故に經濟上の問題としてはそれよりも住宅地域、花園地域の異なつた分割が寧ろ好ましく思はれる。それも審美的の方面を無視せずして、



材料や資金の乏しい今日の時代に於て、大なる地域はその全體を速かに建て上げることは困難である。幾年か恐らく幾十年か、かゝつて除々に發展して行くのであるから、

全體の地域に誇がる街路の網狀は、全體として見る時に意義があることで、部分としては單に未完成の不滿足な空虛に脫線してしまふ。併し若し將來に發展してある可き土地を區分し、或る制限せられた地域に建てるのであるならば(圖表四十四號)各引き離れた部分は各々その時に適應した財源と狀態に從つて、獨立に建て得られるし、又始めから各々異なつた大さに建て得る。その一定の制限せられた發展の範圍内にある處の或る夫等の各部分は、一が實體として自ら機能、作用を有する。



繪畫の統一

全體の地域の發展が出來上がつた上畫面の効果の統一に加へてある可き、第二の魅力がある。―即ち部分と部分との關係、一の繪畫單位と他の繪畫單位との關係である。一の繪畫が他の繪畫に對する畫面効果である。その家屋建築の土地と他の打ち開いた田舍との統一から齎らして來る。風景上に於ける構成である。かくして全體は一の明かな包括的な繪畫につくり上ることである。かうした結果は全地域に劃一的に擴がる處の街路の網狀によつて得ることは出來ぬ。實に個々の家屋が一個の繪畫である程に、各家屋に附屬してゐる土地が擴がつてある時にのみ惹き出してあり能ふのである。即ち個々の家屋が、各々著しく己を現はし得るために、全體の地域を家屋をもつて埋めないのである。左樣した場合は普通の町はづれの發展から得ることは出來ぬ。そこではその場合に要する附屬の土地が、個々の引き離れた繪畫を不可能ならしむる程に、延長に於て廣くない。夫れ故に現在の都市の發展に於ては街路が網狀をなしてゐるので、その境界線を認むることも出來なければ、又全體として眺望することも出來ぬ。廣い小區分の繪畫をなしてゐるのである。

低層建築傳統

現在の郊外發展に對しては、これを高層建築の都市發展と對照して研究することによつて、その郊外發展のため全然新らしい都市計劃の形式を選むことが論理的に必要である。左樣した形式の內容を、根本的に異なつた形式の都市よりも、寧ろ現在存してゐる低層建築の發展である村落に發見することが出來る。田園郊外は單個の家族的の型を除いて、その土地の發展に對しその原型を（設計でなくして形式を）村落の各場面に發見することが出來る。夫れ故にこの傳統を研究することは論理的である。此道をとるならば、都市から打開いた田舍への推移は、何處か都市の端近く、高層建築を並べて、何處か無意味の處に走つてゐる街路から始めるのでなく、更に單純に更に自然な風に造ることが出來る。

現在我等が企てやうとしてゐる。低層家屋の發

展のために、都市の街路を繼承することは論理的にも實際的にも不可能である。實際上我等はその街路を狹くして加減を加へ得るし、かくして道路を舖床に造る費用も尠くてすむ樣になし得るも、併しその街路そのものを除去することは出來ぬ。この樣な形式の發展の下に住む、郊外居住者は、その庭園をその家と直ちに竝置させる。併し庭園はたしかに狹少であるから、市の勢力が彼の上におほひかぶさつて來て、それは市の發展でなくして、單に市の中心から逐ひ出されたといふ迄のものとなつてしまふ。

空地

郊外發展は明に小供の利益のためにつくられてある。若し郊外發展が造るならば、市が自然から與へることの出來ぬあるもの——畑地又は庭園、牧場にせよ又は森にせよ、兎に角打開いた空地を備へつけねばならぬ。現在の郊外發展には左樣した餘地は一つも備へてない。歩行者は街路から街路と打つゞくを見るのみで、市中におると尠しも違はない。市からそれ等の家々を引き離し得る處の庭園地や家屋の附屬地は、實際的に何等役立つてゐない。

これに反してこゝに主張する區別を判然として發達させた、庭園地を混交させることは、その庭園の土地を非常に役立つものとせしめる。

街路の網狀の形式による發展の方法では、各々の家屋に庭園を排置してあつて、別に打開いた餘地に依頼せぬ設計であるが、自分の今主張するはこれとは全く反對の對照をなせる設計で、各々の家には別にその家專屬の庭園を要せない。たゞ共同の打ち開いた空地庭園地に全體の家屋が依つてゐるのである。かくして得た空地（スペース）は打開いた、廣い空地となり、一般の利便のために用ひられ得るかくして風景を保存し、森林を保留し能ふし、又家々と打ち開いた田舍とが互に排し合ふ樣な具合にならぬ。反つて相互の對照によつて互を高める結果になる。美はしい部分は、此發展の方式によつて、一層その効力を發揮し、而してその植民地はその鋭い界限をもつて、掩ひ包む展開せる田舍の廣大その中に、顯著な又理解し易い一の繪畫を

備ふるに到る。

或區域を借地したり、又は賣つたりして、田畑と庭園とを交互におき得る樣ならしむるもよからう。かくして當面の必要に最も正確に自己を適應することが出來る。

その如く植民地域と展開せる田舍との間の關係を、發展の地域内に於て成し遂げ得る丈けに止まらず、その植民地を、これを超えて彼方に遙に擴がつてゐる田舍の中に、最も單純な自然な風に汲入せしめてしまふことも出來る。

展開せる田舍との關係

これが最も本質的の點である。郊外の發展に於て都市中の家屋の型——賃借した全く紋切り型の同じ樣な家々のはてしない行列——を忍び切れぬ樣になる迄、操り返へす必要を見ない。寧ろ都市人をして再びその自然の土地に觸れしめ得る樣——今日彼等が全く失ひ去つた處のその土壤との接觸に彼等を持ち來らせることが必要である。都市生活では殆ど一千年間この關係を失つてしまつた獨逸に於て、今日迄傳り來つた古代の村落傳統を有するは幸福なことである。併し村落を模倣す可きでない。何故ならばそれ等の新植民地を形造る者等は都市人であつて、都市の要求を持つてゐるからである。都市民としての要求にも滿足を與へしかも土地に對する要求をも否定しないといふ方法は、都市と村落との結合から導き出すことは不可能である。新なる兩要求の結合がそこから起り得る筈がない。田舍との關係は數學的方式に從つて、土地を諸々の庭園に分割することによつて到達せらるものでない。唯田舍の中に直接に植民することによつてのみ、家と田舍とを互に生命的に關係させることによつて到達せしめ得る。

即ち高層家屋の都市計畫が、絶對に建築敷地に關係してあるのであるから、低層家屋の郊外計劃は、そこからばかり惹き出してくることは出來ぬこゝに家屋と田舍との交互的な關係の解決、すくなくともそれを造ることに向つて重要である。しかも不幸にも此事が一般に忘れられてゐる。この解決をなすためには、家の形式やその大さ敷地の形などは獨立に道路を敷く處の都市計劃を用ふ

る必要がある。併しこれは無形式な、凡ての抑制を欠いだローマンチックな方式の意味ではない。住宅地や庭園地としての植民地の別種の特色ある發展、より短かい街路を通じての最大の能率、下水道、點燈への節費、共同の壁を用ふることにより低層建物の價を言ふのである。

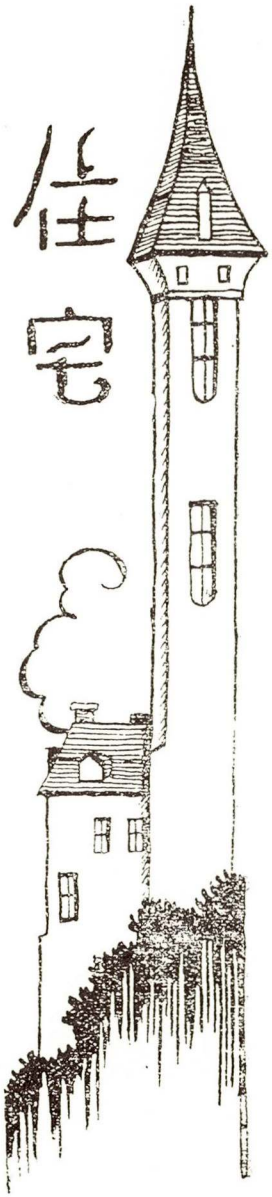
家屋を並列したクローズド・ブロック（譯者註中庭を中心に三方家並にて圍み一方のみ出口ある建て方）を餘り持たないのが、よく設計せられた今日の住宅地都市街路の特色である。家と家との間により大なる空地をもてる家々を並列させる方式は、此迄は普通郊外の發展に用ひられて來た。その如く十分によく設計せられた都市住宅地にあつても『自然』そのものに觸れることも又美もそこにない。最早田舍でない樣な工合に土地が分割せられた上、團體の要求が個人の要求のために犧牲にせられてゐる。

利用し得べき有効なる地域を一個の單位として用ふるの努力が始められゝと共に、或一の地點に家々を集中する樣になつた。而してその地點は、集中せられた地域のそれに比例する大さの、世街路と交叉街路の網がある。

それ等の聚團は、全體としての發展の十分なる餘地に比例して、廣がつてゐない上、その家々も低いのであるから、別に家並を破る必要を見ないそれ故に前には都市の共同家屋に用ひられてゐた形式であつたものが、手廣い郊外の低い家々の發展の特色であるに到つた。

以上に於て自分は郊外を含む、市の單位に就て論じて來た。何故ならば、都市計劃の見地から、都市の組成は未解決の問題であつて、その問題を明にするにはその問題に關して、明晰なる思考に到達する必要がある。新なる經濟的の形式は、都市からでなくして、田舍の植民地から始めねばならぬ。即ち自己を支持する處の企劃をもつて始めねばならぬ。單に以上に記した如き、展開せる田舍に密集した植民地をつくる時に、そこに新經濟的構成が存在し來り、又自然にそこから新都市が創造さるゝ樣になる。

自分は都市が漸次に田舍に解け去り混入し、而して都市と田舍とが互に有機的關係に結ぶ處に都市計劃の價値があると信實に信じてゐるが故に此一文を草したわけである。かゝる都市の形式が直ちに現れんことを祈る。



青島の住宅

加藤善吉

一

青島は今や支那に還付されて將來如何なる盛衰を齎らすかは吾人の想像も及ばざる所であるが、西曆千八百九十八年獨逸が支那より租借して以來、東洋の根據地として、將た、東洋文明の策源地として、都市計畫を確立し以て軍事的設備を爲すと共に諸般の施設に對しては最善の努力と巨大なる資財を拋つて十有六年の間桔据經營した處である而して又獨逸は都市の施設として新らしき試みは先づ青島に於て行はれた、即ち都市の財源たる土地增加稅の如きも始めて獨逸が試みたのは青島が嚆矢である、而も又此試みは豫期の好成績を納め直ちに「フランクフルト」市に採用されて以來瞬く間に全獨逸を風靡するに到つたのである。斯の如く獨逸は青島に於ける文明的施設は巨財をおしまず萬難を排して其任に當つたが爲めに諸般の設備が完全して居る。

今青島の住宅に就て述ぶるに先ち住宅は其の土地と氣候と又環境の施設如何に重大なる關係を有するが故に、此意味に於て、序に青島の地勢、氣候及住宅に關係を有する施設に付て述べて見様と思ふ。

青島は膠州灣を抱する半島上にあつて、内に深く膠州灣を藏して、前には黄海を控へ、東北は蜿々たる嶗山山脈が横つて居る、氣候は一年を通じて概ね温和であつて我日本と餘り變りはないが只降雨は非常に稀であるが爲めに空氣は常に乾燥して居る、又時に濃霧に襲はるゝ事もあるが支那大陸に見る如き氣候の激變がなく支那沿岸中稀に見る景勝の地である。

二

住宅に關する施設としては上下水道及電燈の設備が完全して居る、獨逸時代の上水道は李村水源地のみであつたが、我軍占領以來邦人の移住甚だしく增加したが爲めに前記水源地を擴張すると共に更に白沙河に水源池を設けて以て市民に對して水上遺憾なからしめたのであるが夏季に於ては尚不足を來して斷水することがあつた。又下水道は分離式及混合式の二種の下水管が布設せられて居る、我都市に於ける下水道と稱するものは住宅に於ける炊事場或は浴室の如き場所より排泄せらるゝ廢水のみを放流する爲めに土管を埋沒したるものを稱するが、斯の如きは現代に於ける完全なる下水道にあらずして頗る不完全なるものであつて下水道と稱する程のものではない、而しながら一部の徒又は我都市に於ける住宅經營者の如きは下水道完備せりなどと自己の經營地に對して高唱して居る向もあるが之等と雖も皆不完全なるものであつて、完全なる下水道とは、糞尿を處理す得べき下水道であらねばならぬ、我都市に於ては最近漸くにして東京の一部に此下水道を見るに到つた即ち下水道には糞尿其他の汚水を排除する汚水管と、雨水のみを排除する雨水管との二種あつて、下水道を通して、汚水管と雨水管とを區別する分離式と、汚水及雨水を同一渠によりて排泄する混合式とある。青島は即ち前記の二種が布設せられ

て居るのであつて而して雨水は下水渠内を通過して自然の傾斜を利用して附近の海中に流下せしめ汚水も亦地勢を利用して自然流下の方法に依て之を下水喞筒所に集合し喞筒力を以て排除せしむる設備になつて居る。

以上は住宅に關係を有する施設の概要であつて要するに青島は氣候温和にして降雨稀なる地であつて上下水道及電燈の設備完全なる處である。

三

而して青島の住宅を述ぶるに當つて先づ之を二期に分つを便利とする、即ち獨逸計畫經營時代と邦人經營時代とする。獨逸時代の代表的住宅は總督官邸であつて我軍占領以來は代々の軍司令官々邸に充てられた、其の高燥なる土地と建築の莊重なる又建築費の大なるに驚く、青島に於ける總督官邸として餘りに多き費額の爲めに當時の獨逸本國議會の大なる問題を惹起したると云ふ事である、其他も可なり大なる邸宅があるが之等も凡て耐火的であつて良く其の環境と調和して居る、之れは獨逸が千八百九十八年九月青島開設の頭初に早くも建築取締規則を發布して嚴重なる取締を行つた結果であつて今之れに依て見るに建築物は何れも衞生、交通、堅牢、及耐火の要求に應じ得べく、其外觀は建築すべき當該市區の體裁に適應せしむべしと規定し、新築又は改築を爲すに當つては建築警察の認可を受けしむることにしてある、斯の如く、都市計畫の最初に於て今日我が六大都市に實施を見たる市街地建築物法の如き取締上最密なる規定を設けて實施したが爲めに其の建築は凡て耐火的であつて而も皆良く都市の美觀を損せず、所在位置と甚だ良く調和を得て居る、我都市の如く病患官に入りて始めて投藥するの愚とは大なる差があつた。

獨逸時代の住宅は主として一戸建住宅が大部分を占め共同住宅の如きも多少なきにあらざれども長家建住宅は餘り見受けない而して住宅として相當大なるものゝみで構造は凡て壁體は煉瓦であつて煉瓦其儘露出せるものは殆ど稀に見るのみで凡て「モルタル」又は漆喰を塗つて種々なる色彩と施工

の方法を示して居る、根積は大抵花崗石亂石積であつて「セメントモルタル」を多少使用して居るが煉瓦積に到つては石灰「モルタル」である我日本の如く地震に伴ふ危險がないので全體を通じて之れである、屋根は木造小屋に青島特有の「オレンジ」色瓦を以て葺き之れが又夏季アカシヤの街路樹の綠色と良く調和して言も言はれぬ美觀である。

又何れの住宅も地下室を作るか又は地下室の必要なきものは床下を高くして半地下室の如きものを作つて床下の通風を完全ならしめて居るが故に、床下よりの濕氣の爲めに、一階床の「ジメ〳〵する事などはない、窓、出入口には大抵開戸であつて夏季に於ては蠅蚤類の侵入を防ぐ爲めに金網戸を取付けて居る。又特筆すべきは住宅の建築に於て良く地勢を利用して居る事である、我日本の如く住宅は凡て平坦なる土地でなければ建て得ざる如く考へて居るが青島の住宅は崖其他傾斜地等を巧に利用して却て住宅に美を添へて居る。採暖の方法は四種あつて一、「ストーブ」兼用の温水式煖房、二、「ペチカ」、三、「ファイアプレース」四、「ストーブ」であつて室内に調和した裝飾を施した「ペチカ」が可なり多く設備されて居る以外は「ストーブ」である。便所は前述の如く完全なる下水道を有するが故に凡て洗水式であつて之等に對する衛生は十分保たれて居る、我都市民は完全なる下水道を有せざるが爲めに相も變らず便所と共同生活を續けて居るが爲れでも便所は臭い所とあきらめて平氣なものである、かゝるが故に洗水式便器の使用法すら知らぬ人が多數を占めて居る、考へて見れば實に情けない話しである。

四

飜て現時我國に於ても可なり注意せらるゝ問題であるが建築物と空地との關係に就て見るに、建築取締規則に於て左の如く規定をして居る即ち、

凡て地所を面積の六を限り建築敷地たらしむるを通則とす、此計算をなすに當つては前庭となるべき地所の總面積は豫め全地所より控除し置くべし」、又別莊式住宅の建築物は普通は全面積の十分の二を限り、角地にあつては、十分の

四を限り家屋の建築を爲すことを得」

斯の如く衛生、又は環境の保存美の爲めに可なり廣き空地を要求して居る、爲めに今日見る獨逸經營時代の住宅は凡て可なり廣き庭園を有して恰も田園都市の觀がある、庭園は凡て開放的であつて周圍の塀と稱するものは僅かに高四尺位の木柵又は金網柵を周らすに過ぎない。

以上は獨逸經營時代の住宅に關する概要であるが之れに依て見るも住宅に對する周到なる觀念の元に其施設に於て滿全を期して行つたが爲めに惡疫流行の地であつた青島を化して衛生的都市たらしめたのである。

五

邦人經營時代は我軍占領以來即ち大正四年以後であつて邦人の移住多きを加ふるに伴ひ我軍に於ては大に都市の擴張を行ひ其面積獨逸時代の約三倍に達して居る此等の計畫施設をなすに當つても以上述べた獨逸時代の經營の事實に倣ひ此點に深く意を用ひ大正四年八月我軍に於ては新たに青島家屋建築規則を發布して一般建築取締を爲すと共に極力之が實行に勉めた、其の內容に到つては煩を避けん爲め省くことゝしたが要するに衛生、交通堅牢、耐火の要求を掲げ邦人建築に適應する規定を設けたのである、建築敷地と空地との關係に於て制限稍や緩になり敷地の四分の三を建築面積となす事を得べく規定した、住宅も無論此の制限に拘束せられたが爲めに外壁は凡て煉瓦又は石造であつて我都市に見る木造の陋屋は見る事を得ないさりながら占領以來一時的多數の邦人移住に際して住宅の窮乏を告げ建築の速成を期したが爲めに民間建築取締に對する當局の苦心思ひ半ばに過ぐるものがあつたが良く之を遂行せしめた、元來邦人は法律命令の下に於て紀律又は訓練に服するが自發的に善良なる施設を爲すの能力欠如たるものがあるので殖民地或は新開都市に於ては當局は此點に十分の了解と十分の覺悟を以て其の施設の任に當ることが肝要である、青島は此點に於て幾分當局の施設宜しきを得たと稱することを得ると思ふ。

邦人經營時代に到つては公共的建築に於て獨逸のそれを凌駕する大建築を見たが、住宅は稍貧弱なるの觀は免れぬ、住宅の構造は獨逸時代と異らざるも生活樣式の異なるが爲めに起る內容の變化と生活程度の高低に依る住宅の大小とは勢ひ茲に住宅の凡てに影響を及ぼしたるは必然の理であつて連續住宅の現出を餘儀なくせしめた、連續住宅とは言ひ我都市に見る如き木造長家と異なり多少文化的施設を有するが故に吾人が取扱つた住宅に對して其の概要を述べて見樣と思ふのであるが果して都市の將來に此の如き住宅は適するや否や。

六

暫らく茲に都市住宅の將來は如何なる要求が必然起るであらうかを考いて見たい。

元來人間生活の向上は住と言ふ問題にその一つの大なる根底を置いて居るのであつて我國の現狀に見るに其多くは過去の住宅或はそれが非文化的に改造せられたるもので文明國人の住宅として遺憾の點が多い、アパートメント、田園都市住宅等新らしき住宅の試みは未だ寥々たるものである勿論叙上の住宅は吾人の理想とするものにあらざるも將來地價の昂騰と地域の狹小とに伴つて勢ひ立體的となり前述の如き高層住宅と連續住宅の出現を止むなくするであらう、アパ・トメントは暫らく置き連續住宅に關する利害に就ては大に講究を要する問題であつて之等に關しては稍舊聞に屬するが一昨年末頃アメリカン、アーキテクチーヤ紙上に發表された第七回亞米利住宅協會總會に於けるリチャードヘンリ、ダナ氏が The Group House に就ての講演を見るに同氏は次の如く言ふて居る

「十三年間の同情的研究の結果一軒家の住宅は薄給者に對して決して最善の型ではない私は一千九百〇五年英國リッチワースの田園都市を開いた時にそれに臨んで直覺的にそれを感じたそれ以來この事を論理的に肯定し樣と試み遂に其の確信を得るに到つた」と

即ち吾人が經驗し今尙苦しめられつゝある連續家に對して左の如く言ふて居る。

一、地主はこの樣な家は賣る時に困ると反對する

これこそ獨立して立つことを得ざる様に見ゆるを一般の貧弱にる長家の建築構造に根底を置く全くの辟見ではないか。

一、長家は騒々しくして隣人の動靜が聞こゆる。從來の例に於てはこの様なことがあるであらうが現今法律に依つて要求せられて居る室より屋根まで貫いて居る隔壁は防火の効力があるのみでなく音響に對しても十分である。

一、貫通換氣上の非難及外觀の單調等も設計に依て免るゝ事を得る。

のみならず大なる利益で掲げて

構造と煖房の經濟　内部のより大なる獨立を、外部のよりよき外觀である之等の色々の大さの連續家住宅が發達して相互及都市の平面に關係を持つて建てられたならば毎エーカーに同數の家族が込合つて住まつて居る一軒家許りの町より餘程氣持がよいであらうと思ふ」と

右の言は大に傾聽に値するものがあると思ふ、我國の法律は未だ連續住宅各戸仕切毎に防火壁を設くるの規定がない爲めに、隣人の騒音を防止するの制限はないが青島に於ては壁體は凡て煉瓦造であるが爲めに此の欠點を補ひ得るが階上、階下との床の構造は主として木造であつて勿論音響防止の設備は施してあるが此の非難を免るゝ事が出來得なかつた、故に床も凡て鐵筋「コンクリート」とすれば此欠點を免れ得様と思ふ。

青島に於ける連續家又は共同住宅は階上階下各一家族を收容するもの、四家族又は八家族を收容する平家、階上、階下各一家とする八家族收容のもの等であつて居室は主として疊敷であつた壁體は煉瓦造、床は疊敷床を除いては鐵筋「コンクリート」であつて其他は獨逸時代の構造と異なる處はない、平面を掲げて稍詳しく之等の利害得失に關して述べたいと思ふが餘りに多く貴重な本紙をけがすを恐れ擱筆する。

× × ×

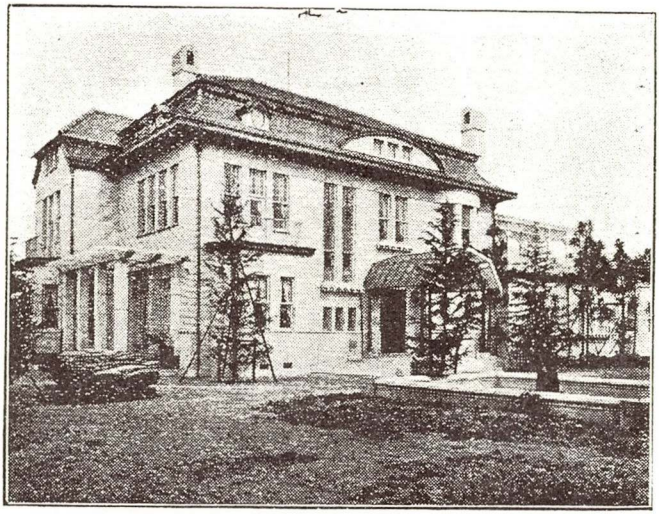
住宅を解放的に

石川呉服店主夫人　石川しま子

限りなき蒼き海原、渚につゞく白き砂、綠の松、さうした雄大な自然の一景を恣にした南海の名勝、高師ヶ濱に一際輝く獨逸風の宏莊な建物はそれは道頓堀石川呉服店主の邸宅であります香はしい殘風のそよ吹く靜な晩春の一日美しくあでやかな夫人は新築の家についての苦心やら希望をお聞かせ下さいました。夫人は特に裝飾について興味をもつておられる樣でした内部の各室及びそれに連續してゐる處の廊下などの裝飾の工合それは只もう善をつくし美をつくすで高價な美術品も夫人の苦心によりて其價値を落さず輝いてゐます。次に記したものは其時の夫人のお言葉です。（N子）

種々立派な『家』を御覽になつてゐましては私共のこれといつて變つた處もない平凡な家を見ていたゞきますのはほんとうにお恥しい樣な氣もするのですけれど……でもそれ〳〵個性が遠ひます樣に其處に表はれてくる趣味性、たとへば其裝飾なり各室の用ひ方によつて違つてくるものだろうと思ひます。洋館にしましたのは時代に應じましたのとすべての感じがいゝと思ひますのでしましたのですけれど、それでもすつかり洋式にしてしまふのは私共舊式なものには少なからず不便を感じますので外觀は純洋風ですが臺所も日本風ですし茶の間もあり二階は殆んど日本間にしてあります私の話は少し矛盾してゐる樣ですけれど……小さい時からの習慣は今となつて急になほりませんもの、いつも〳〵かうして椅子にかけてゐますとごつかへかう座りたい樣な氣持ちになりまして日本間はどうしても離す事が出來ません。それでも夏はまだ少々我慢が出來るんです、窓などすつかり明けひろげまして隨分心持ちよく風を入れる事も出來、輕い服裝で椅子によつてゐるのも愉快ないゝ氣持ちのものでせうが、冬は何程室をとぢ切て完全な暖房裝置をしましても腰掛けてましては何

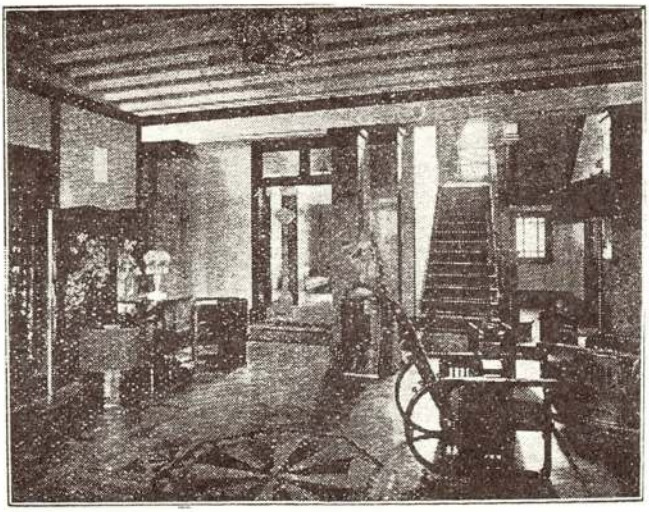
だかこう裾から冷え込む様に思ひまして、御式と笑はれるかも知れませんが、やはり脚を曲げて座り込むのが一等暖い様に思はれます。それに宅などは家族も少ない方ですから、フイに來客がありまして、並段火の氣もない部屋に急にストーブを焚きましたとて、直に部屋中が暖まりませうか、寒い外から冷たい室に這入つてこられる方々にたまらなく不愉快なおもひをさせ申す事と思ひます。ではどの室も〳〵暖めておけばいゝと云ふ様なものですけれどそれではあんまり不經濟ですから、冬はどうしても日本間に通して火鉢を圍む様になつてしまひます、私はその方が如何にも親しみがある様に思はれます



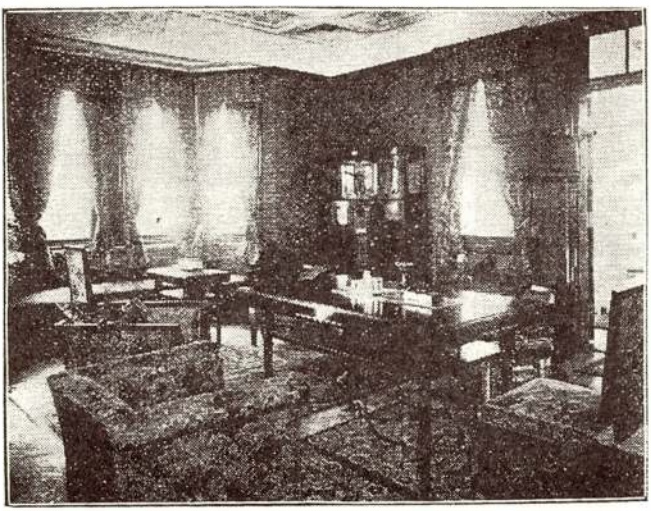
石川邸外觀

氣分を保つために——かうして書やマーブルの彫像を並べ特に電燈のシエード抔和製ではほんとうりませんのでお恥しいのですけれど……では御案内致しませうか……先づ玄關の方から……私共では時々多人數のお客をしますものですから玄關の横へこうゆふのを設けました。應接なりホールへ御案内する前に此處へ帽子や洋傘それに携帯品抔をお預りするので玄關でマゴつく事のない様にしましたのです。それから此方が（玄關から廊下をへだてた向側）が食堂とホールと應接室になつてゐます。そして此庭に面した方が喫煙室でそれにならむでヴエランダーがありますどの室も出來る丈優雅な華やさにしたいと思ひまして——それはいつも自分が若々しい何も目新らしい處もなく御話申上げる材料とてあ

にいゝと思はれるものが殆んどありませんのでホールや食堂にはフランス風の想ひきつて美しいものにいたしました。あの水晶にも等しい硝子の細工はあれ丈見てもいゝと思ひます。それからあのヴエランダーのを御覧下さいまし、何か珍らしい意匠をこらしたもので、其室とよく調和するものと想ひまして、笠の上からあのように草花の亂れかゝる樣にさしてありますでせう、如何にも女性

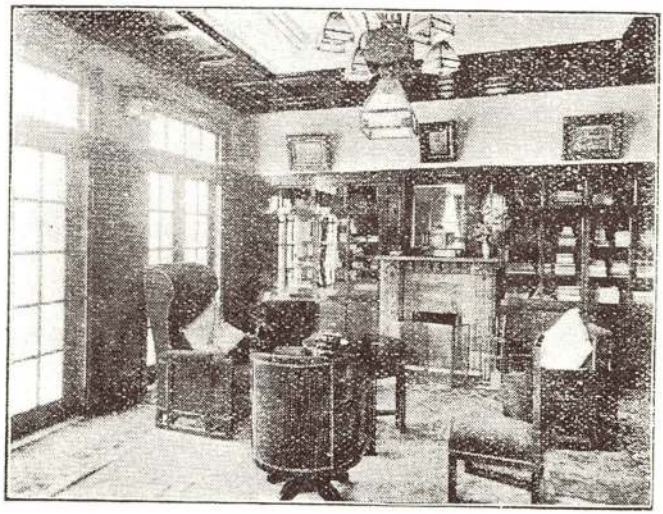


ホールの一部



接待室

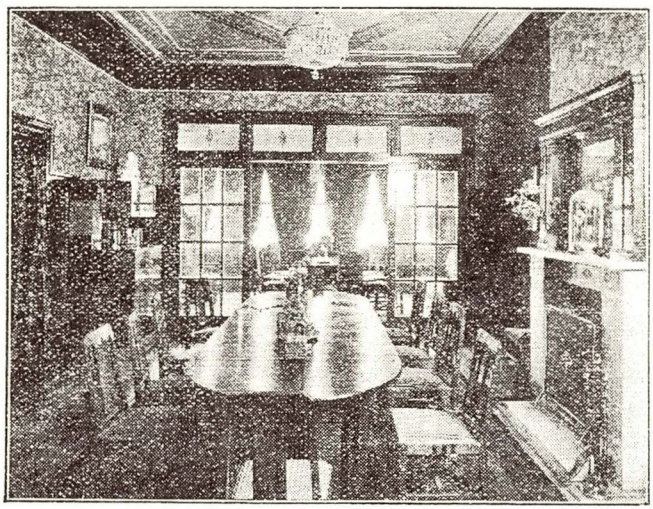
的の優しさが表はれてゐると思ふんですが、ヴエランダーはこうして種々な草花で裝飾してお友達などと親しく語ろふ樣に椅子やテーブルも極輕い感じのするものをならべました……それから……どうぞこちらへ……こゝが書齋です（廊下へ出て左の突當り）がなるべく靜かな處へと人氣の少ない庭の横にあたる處へ設けました。そして壁やカーラン床などの色も落ち着いたグリーン系統のものを用ひました。こちらにありますのは婦人室ですが此處は社交的にと出來る丈華やかに明るい色を用ひましたそれに又此處は御婦人のお客の私室にもなりまして、其隅の方に大きな扉がありますでせう。あの中に寢臺が這入つてゐてバネ仕掛になつてゐますからどんな



書齋

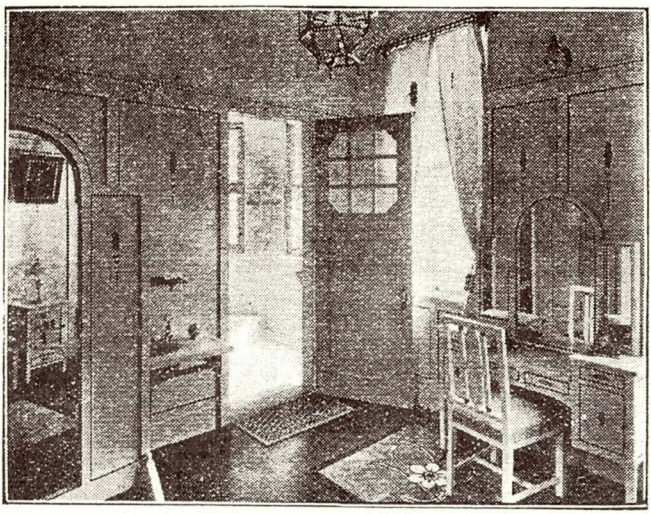
に力のない御婦人でも指一つでおし出す事が出來るのです、普通の寢室ですと、寢臺がいつもおきつきりになつてゐますから書間は何の用もなさなゐで一寸無駄だと考へますので宅では寢臺は皆こう云ふ風にしております……エヽ壁ですか、壁は全部紙張なんですのごなたにでも尋ねられる度に何だか氣がひける樣に思はれるのですけれど私共は矢張割著主義でしてね……時代々々に適應して新らしく取替えてゆき度いと思ひますので：只今は色や模樣抔隨分上手になりましてまるで裂地と變りません。ホールや食堂のしぶいでも紙だといふとかへつてうそだと云はれます。それからこの隣が子供室で

ずが子供がまだ上の方がやつと今年から小學校へあがりましたので部屋の秩序なんかもたつてゐませんが、其周圍の壁に描きました六つの花瓶は無事に一年々々進級してゆきます毎に畫かきの方にお願ひして奇麗な花をさしていたゞき度いと思つてゐます。さうして進級と共に自分の部屋が飾られてゆくのは子供にとりましても樂しい事だと思ひますので……それからこの廊下をずつと向ふへ參りますと浴室と化粧室で左へ折れると臺處になつてゐるのですがお目にかけゝ程のものでもありませんから二階の方を御案内致しませう。……此取付は休憩室、談話室にもなりましてこゝ迄は洋式ですがこのドアを明けますと此通全部日本風です。そして此二十五疊の御座敷は私が下手な長唄をやりますので時々皆さんと親しく會など催しますので御覽のように小さい舞臺までこしらへております。むこうのヴエランダーはその時の休息所としてゆつくりと落ち着ける樣にやわらかみのある椅子を配置いたしました。此座敷の右手が茶室ですが催し物をします時は樂屋にも用ひます。それからその前が私の部屋になつております。和洋折衷の變なものにせず純日本風にしたいと思ひまして天井も低くし洋式の窓の内側へこうして優美な日本の障子を取付けこゝ許りは毛唐くさい處はすつかり消して仕舞つて日本家に住居してゐる樣にいたしました。疊敷の日本間には頑丈な窓や高い天井は何



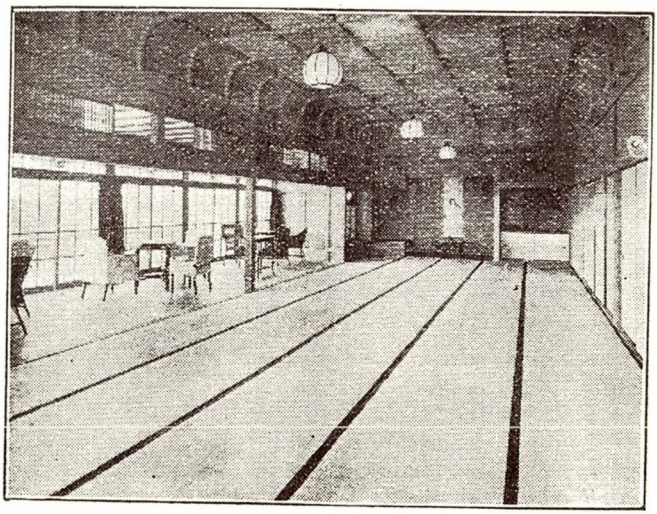
食堂

となく落ち着けなくて不自然な處がある樣に思はれてなりません。それから又此廊下からまつすぐ



化粧室

に參まして此方が佛間ですが家具や置物などは純日本風ですのに洋室を其儘用ひてゐます。皆樣は

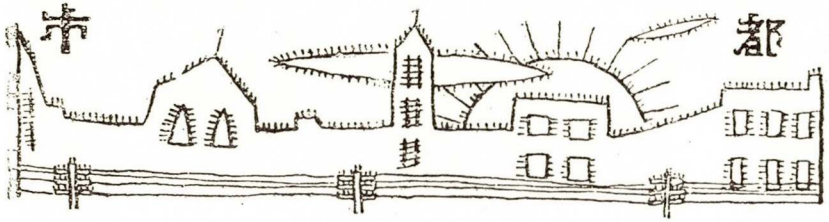


二階の廣間

少しも不自然な處がないといつて下さるんですけれど……如何ですか……佛間としては少々明るすぎる位ですね、建てる前には種々理想や抱負はありましてもさて建て上つたものをみてみますとな

か〳〵思ふ様にはなりませんしなつてゐた處で又慾が出ましてね……日本間と西洋間との境目など餘程巧くしませんと折角いゝ室も其巧拙によつてすつかり壞されてしまひますし、それに各部屋のカーテンや壁の色又は家具の様式や配置によつて其部屋の装飾品や美術品の價値が失はれてしまふのですからフランス風、ドイツ風、日本風とそれ〳〵其品質をみ定めて不自然のない様に調和させなければなりません。……定めしお疲れになりましたでせう、食堂へいつてお茶でも呑み乍ら又お話申しませう……私共では庭園もすつかり出來上りましたら解放して子供の運動具抔も自由に使用出來る様にして村の方々にも共に遊んでいたゞきたいと思つてゐます。二階の舞臺なども入用の時は自由に使つていたゞく考へです、只今あのガーデンを造つております、片側の方に建つておりますでせう。あれは園遊會をしました時、又は村の方達が使つて下さる様に餘興場といつたものでして樂屋も湯殿もつゐております。さうして皆様と一所に樂しむ事が出來たらどんなに愉快な事だらうと思つてゐます。……何も纏つたお話しもなくてほんとうにお恥しいのですが……どうぞコーヒーのさめないうちに召し上つて下さいませ。

初夏や
峠の御堂
朝の雨



初めて見た倫敦（上）

法學士　小川市太郎

倫敦のホテル

私は紐育から倫敦に行きましたが、紐育から初めて倫敦に行くと、何となく淋しいやうな、不自由たらしい感がします。

先づ第一ホテルですが、米國一流のホテルになると、電燈や水は勿論、風呂でも便所でも、何から何まで部屋の中で辨じますが、倫敦のホテルではそうは行きません。大概は便所も風呂も部屋の中に附いて居ません。廊下を出て行つて、用を達さなくてはなりません。お負に電燈の光力なども、米國あたりに較べると案外貧弱です。私は初めて倫敦のホテルに泊つた晩、便所の電燈をつけ放にして置いたところが、ボイーの奴すぐ後から消に廻つて、濫費しては不可んと注意せられました。私の英國人のこの心掛には大に感心しましたが、それにしても又ケチ臭い奴だと思いました。

それから米國のホテルでは、食事時に下のグリルにでも行かうものなら、何百人と知れないお客がギッシリ立て込むで居つて、大變な騒ぎですが敦のホテルは食堂なども至つて靜かで緩つくりして居ます。コンナ風で英國のホテルは設備やサーヴキスの點に於て、遙に紐育あたりより劣つて居りますが、何處となく家庭の氣分に富むで居るのは氣持が好い。

米國のホテルの十何階かの大きな部屋に寢て居りますと、何だか監獄の獨房にでも居るやうな具合（私にはその經驗はありませんが）で、殺風景なことこの上ありませんが、倫敦のホテルは、部屋の構造のせいでもありましやうが、矢張人の家に居るやうな感がして、溫か味があります。それに米國などと違い、ボーイの行儀もよく、言葉でも一々アトに sir づけをしますから、何となく客に好い感を與へます。

倫敦の市街

それから次には倫敦の街ですが、人間と自動車で湧き返へるやうな紐育からやツて來ますと、流石世界第一の大都會も何となしに淋しいやうな感がします。

無論倫敦でも『チエーリング、クロツス』や『ピカデリー』あたりの目貫の場所になりますと、人の往來が織るが如くである上に、自動車とバスの行列が絕ゆることなく、その混雜は一通りでありませんが、それでも紐育の『フキフス、アヴエニユー』のやうな無茶苦茶な騷動と混亂狀態を見ることはありません。

倫敦の家は霧と煙に汚れて、外觀薄キタナクなく見へますが、何れも頑丈な煉瓦造の部厚な建築でありまして、紐育あたりの鐵筋混凝土の燭天閣に比較して、ドッシリして、重みと趣があります倫敦の家は大概五階乃至七階ですが、此等の家の建駢んだ倫敦の街には、米國の都市などに見ることの出來ない一種の云い知れぬ落着と、權威と澁味があります。即ち紐育を世界第一の繁華な賑かな街としますれば、倫敦は少しは陰氣ではあるが世界第一の雄大且つ莊重な街であると云ふことが出來ましやう。

倫敦の道路

倫敦は永い歲月を經て、自然に發達した都市だけに、街路なども至つて不規則で、全市の道路は勝手に紐を結びつけて、網の目を拵へたやうな格構に出來て居ります。英國ではよく蛇形の道路と云ふことを云ますが、倫敦の道路は即ちそれで、

何れも蛇形に曲りくねつて複雑を極めて居りますのみならず、その上とも概して道幅が狭くために人のコムときなどはよく突き當つたりするほどで交通の危險と不便が甚しく、殊に近年高速度の車輛が急激に增加しましてから、交通事故が非常に多くなつて來ましたので、政府では一昨年の一月以來、毎年登錄稅として、自動車一臺につき十磅宛を徵し、之を道路の改良費に當てゝ居りますが昨年の如きは政府は、この財源から一億圓以上の收入を擧げたと云はれて居ります。聞いた丈でも羨しい話です。

倫敦の道路が狹くて曲りくねつて居るのは、さうしたやうな次第でありますが、それにも拘らず道路の舖裝と掃除のよく行屆いて居るのは、實に驚くばかりでありまして、市中の重なる道路などは塵一ツ止めず、テカ〳〵に光かつて居ります。米國の都市にしたところで、日本などに較べて道路は、遙かに良いのですが、それでもドッチかと云へば、米國人は萬事遣り方が大ザッパで、道路が少し位破損しても、その儘打遣かして置くと云ふ風であるのに反して、英國では、烏渡道路に罅が入つても、直ぐ之を修繕しますし、それに彼は又ホースで奇麗に之を洗ひ流しますから、泥などは何處を探してもあらふ筈がなく、何時見てもツヤ〳〵して居ります。

それですから、往來を歩いた靴を穿いて、その儘何處へ飛込まうが全く自由で、汚ないなどゝ云ふことは少しもありません。之から見ますと吾れ〳〵が三越その他で買物するにも、一々靴の上にカバーを穿いて上らなければならないなどは、實に情ない話です。

「ヴヰクトリア」河堤

倫敦の市内には、到る處、歷史に名高い名區と勝地と古い大きな建物がありますが、これ等のことを申上げると長くなりますから、茲には『ヴヰクトリア、エンバンクメント』その他二三のものについて述べることに致します。

『ヴヰクトリア、エンバンクメント』は大阪で申しますと、丁度大阪ホテルあたりの河岸に當りますが、それは又實によく出來て居ります。『ヴヰク

トリア、エンバンクメント』は『ウエスト・ミンスター』橋から『ブラックフレーア』橋まで一哩半ばかりの河堤ですが、河に沿ふて弓のやうに灣曲した平滑な舗道に、並樹がヅラリと植られ、河に臨まない方の側には、壯麗な建物と美しい小公園が參差交錯して居りまするし、脚下には『テームス』の河が音も立てず流々と流れて居るなど、人工と自然と合して、何とも云へない風情があります。之れが恐らく倫敦の市中最も美しい靜かな街でありましやう。唯河が『ハドソン』などに較べて小さいだけに、紐育の『リヴアサイド』のやうな雄大な氣分を缺いで居りますけれども、併し何と云つても靜な穩な眺でありまして、之れは大阪ホテルあたりの對岸に、控訴院の不格構な建物とマッチ箱のやうな倭屋が、不しだらに並んで建つて居るに較べて實に雲泥の差であります。

『ウエストミンスター』橋

『ヴキクトリア、エンバンクメント』が西に盡きた處に、ウエスト・ミンスター橋が架つて居ります。之れは歐州でも屈指の名橋の一つでありまして、よく美觀と實用を調和した點に於て、他に餘り類がないと云はれて居ります。無論規模の大きな點から云へば、紐育の『ブルックリン』橋などに較べて脚元にも追付きません。併し倫敦の橋は米國の橋のやうに、單に河の上に大きな鐵の橋を拵へたのではなくして、技術家の設計と、美術の意匠と相俟ち、その間に一種の掬すべき美と趣があります。

併し『ウエスト・ミンスター』の橋の美點は、橋そのものよりも寧ろその周圍の光景にあるのでありまして　橋の上に立つて北の方を見ますと、下流には蜒々磯の如き『ヴキクトリア』の河堤に續いて『サヴオイ』『セシル』等の大ホテルを初め、壯麗な諸官衛の建築が連つて居りまするし、更に上流には『チユドル、ゴシック』式の國會議事堂の大建築が、奥床しい灰色の古色を湛へて、左右に高く翼を張つて突立つた『ヴキクトリア』及び『クロック』の兩塔と共に蜃氣樓の如く空中に浮き上見えますが、その神秘的な光景は、莊嚴とも優麗とも評するに言葉がありません。

詩人『ウオヅウオス』は嘗てこの標の眺めを評して、"Earth has not anything to show more fair." と云ひましたが、實際その通でありまして世界に橋多しと雖も、恐らくこの橋ほど、その附近周圍との對照に於て、整調と雅趣と美觀の要素を備へたものは、何處にもあるまいと思ひます。

（未完）

進め過群より花園へ（六）

都市計畫技師　大屋靈城

（二）花園生活

花園都市の設計

一つの住宅を設計するに際して宅地内の幾坪を建築敷地とし幾坪を庭園とするか又何れに玄關を向け何れに座敷を向くべきかと云ふ如き地割を必要とする如く一團地を住宅地域として開發するに際しても豫め色々の計畫を樹てゝ置く事が必要である。

歐米の田園都市的住宅地に於ても我國の住宅經營を目的とせる土地會社に於ても經營者はこの地割にはかなりの頭を惱まして居る。而もこの地割法がうまくなかつた爲に經濟上大なる損失を蒙つたのみならず色々の方面に其の住宅地が不便不都合を來して居る例は澤山ある、例へばレッチヲースのガーデンシチーが案外繁榮せぬのは他にも色々の原因があらうと思ふが一つはその當初の設計がよろしきを得なかつたのにあると思ふ。即ち周圍の農用地を全面積の六割もとつた而もこの田園都市は鐵道線路の兩方に跨つて町が出來て居る。これが爲に全市の交通が遮斷され又大變な不經濟を惹起した。

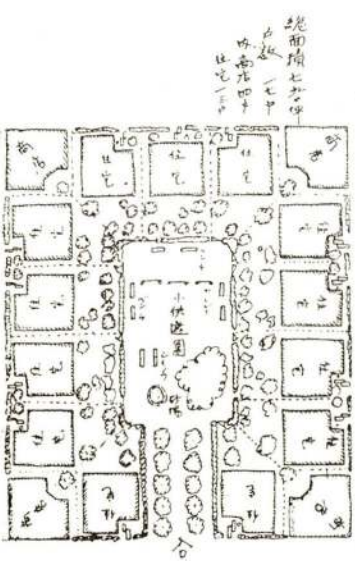
又大阪の鶴町に出來た市營住宅の如きは建物の敷地を全宅地の六割以上も取つた爲に全住宅が非常に窮屈に成つて夏等は蒸し返す位の苦熱の巷となつた。我國の市街地建築物法には少くとも宅地の四割は空地として殘すべく規定されて居るがこれは眞に最小限度を示したものに過ぎず空地は四割や五割では決して十分なものではない四五倍もなくては適當だとは云へない。又一定の面積内に

建てる家屋の數を制限する事もこの空地の適當の箍入を實現する上に於て必要事であるがこれに就ては日本の法律は未だ何等の限定を有たぬのは殘念である。泰西のガーデンシチーガデンサバーブの如きは何れも一エーカー六戸八戸十戸十二戸と云ふ如き程度の制限を規定して各家屋相互の間隔を保つて居る。これを日本の坪に直せば約百坪乃至二百坪に一戸と云ふ事に成るが郊外住宅の一戸當り屋敷の面積としては本邦に於てもこれを採用して差支ないと思ふ。如何なる小住宅も四十坪以下の宅地を以て住宅を構成する如きは止めなくてはならぬ事と思ふ。

又其の形態も大いに考慮に値するものであるが在來の日本家屋は何れも宅地が正方形に近い爲に玄關前と家の後に十分の餘裕をとる事が出來ない從つて家は街道に接近して建てられ日光の直射室内の通風等が道路の向側にある建物の爲に遮斷される事多く道に接する爲に騷々しく色々の缺點を生ずる。從つて近來の傾向は一戸の宅地の形は次第に長方形になりつゝある。泰西の住宅地では多く奥行は間口の三倍乃至四倍と成つて居る、例へば英國の田園都市では

間口　30フィート……奥行　120フィート
同　40　同　……同　130　同
同　50　同　……同　150　同
同　60　同　……同　200　同
同　70　同　……同　300　同

の如きが普通で市内でも多くは間口二十五フィート奥行一〇〇フィート位である。我國に於ては先づ市内にありては間口四間奥行十二間郊外では間


小住宅群の設計地割（平面圖）

口七間奥行二十間と云ふ如きが適當のものかと思はれる。西洋でロット(Lot)と云つて居るのは一つの宅地の謂で此ロットが幾つか集つて一つのブロック(Block)をなす譯である。ブロックの大さ及び形は其の地の自然的並に經濟的事情によつて一定しないが從來は細長い長方形のものが多かつたが此頃の衛生本位のブロックは多く其の内部に共同庭園(Allotment Garden)や小供の遊び場をとつて正方形に近くなつて居る。又郊外の山腹や傾斜地に於ては地形の爲に色々の不整





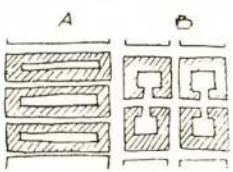


形となる場合が多い。



日本の小住宅はこれまで長屋風に一列に列べられたが同じ面積を以てするもこれを折り曲げて正方形に近くした方が利益が多い。

ヂエ・エフ・ハーダー(J. F. Harder)氏の主張するところによると圖のAとBとは殆んど同面積で同建坪あるに拘らずBがすべての點に便利で氣持ちよいと云つて居る。今この主旨に基いて實際小住宅地を設計した例を示せば圖の如くである。(加藤善吉君設計)



次に一團の住宅地に於ける各種用地の割合を定めることも大いに研究を要することであるがこれはその住宅地の用途位置地勢等に依つて一定しがたい。今歐米の例を見るとレッチヲース及びウエルウキンの兩田園都

市にあつては凡そ次の如き割合にある。

	ヒッチヨーメ	ウェッキン
工業地域	4.54	6.90
商業地域	0.50	7.86
住宅地域	27.39	38.72
公園	1.84	6.90
農用地	66.00	45.62

これを平均すれば各用途に充てられたる土地の割合は假りに工業地域を一とすれば

商業地域	〇、二五
住宅地域	五、五〇
公園	〇、七五

となるが多くの場合は住宅地は工業地の五倍乃至十倍、商業地は三分ノ一以下位が適當であろう。又道路は農用地を別として凡そ一〇—三〇パーセント公園は五—一〇パーセントを以て充當せば大過なからんと思ふ。大阪北港住宅の現況によると住宅四百四十五戸に對し商店は二十一戸なるが尙多少の住宅類を增さゞれば相當の營業をなし難き觀がある。普通郊外に於て企てらるゝ一團の住宅地にあつては工業地域農用地等の地積は考へずに濟むが道路數や宅地、公園等と全面積との割合を定めおく事が最も必要となる。又道路系統等を如何なる樣式に如何なる幅を以て設定するか公園運動場等を如何に配置するか等の問題も起るがそれ等に就ては茲に述べる事をせないが只地割の計畫が宅地構成上如何に重要なるかを概說してこの方面のヒントを與へるに止めるのである。今參考の爲レッチヨースとウエルウキンガーテンシチーのプランを示さん。

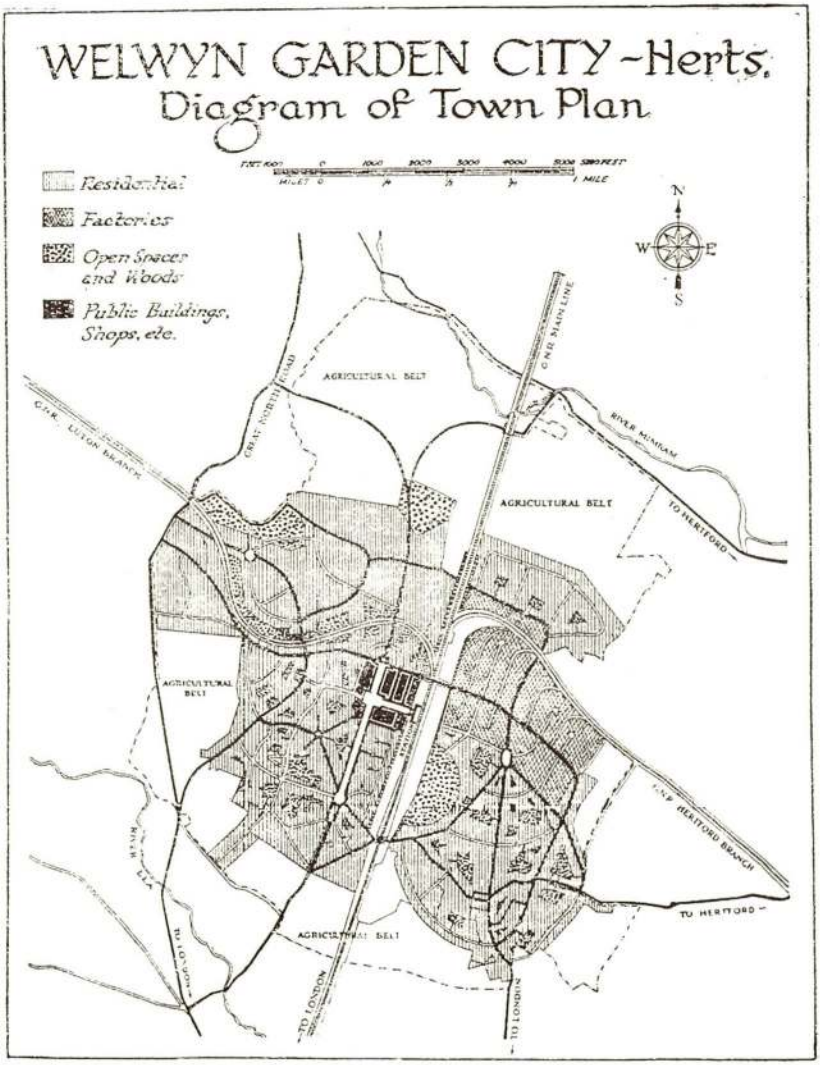
尙花園都市に建てる建物は必ず其の數を定め一定積內に一定限度以上の建物を建てる事を禁止しロットの大さ及び形も大凡定め置く事が必要である。又建築線を道路より二間以上後退せしめ成るべくは家の高さに等しき間をこの幅として前庭を作り茲に裝飾的の芝庭、花壇、植込み等を配し成るべく住宅の環境をコンフォタブルにする。そして後庭を果樹園菜園として保ち實生活と結びつける。

又宅地の周圍に於ては成るべく板壁、煉瓦壁等

レッチヲース田園都市平面圖



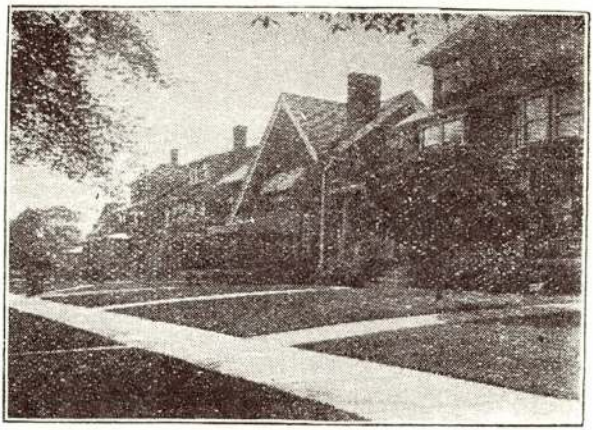
ウエルウキン田園都市平面圖



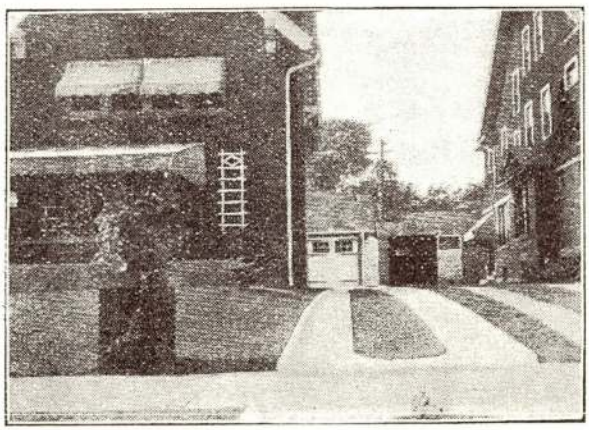
を廢して生垣又は板の垣根に代へ壁を高くして蟄居する事を止めて開放的氣分の住宅地たらしめる事が必要である又門の如きも成るべく簡單に自動車庫へ通ずる通路に於てすら相當の風致的取扱ひをなすべきである。

圖に示す道は車庫前の小路であるがタイヤの當る條のみがコンクリートとなり中央には光を張つて居る。これ等は一見贅澤の感があるが誠に氣持ちよき事である。

建築線を後退させた一例



自動車庫へ通ずる道路の一例



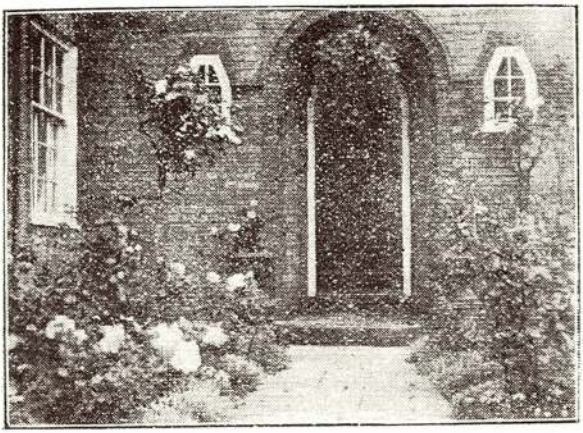
庭木の如きも松、杉の如きを成るべく避けて常綠樹に於てはカシ、シヒモチ、モツコク、アヲキ、マサキ、ヤツデの如きを用ひ落葉樹に於てもケヤキ、ニレ、ムク、エノキ、サクラ、モミヂ、イテフ、ヤナギの如きを植え又時にモモ、スモモ、ナシカキ、ミカン、ブドウの如き果樹及び草花を滿栽して花園生活の實を擧ぐるべく設備する

のである。（續く）

一月より本月に亘りて連載せるこの小論文は愈々今一回を以て打ち切りの豫定ですが完了次第別刷に致す考へです。若し御希望の方があれば小部數に限り實費にて頒ちますから御申込被下さい。

（大屋）

花園住宅の玄關の一例



花園の一例



『エレベーター』に就いて（下）

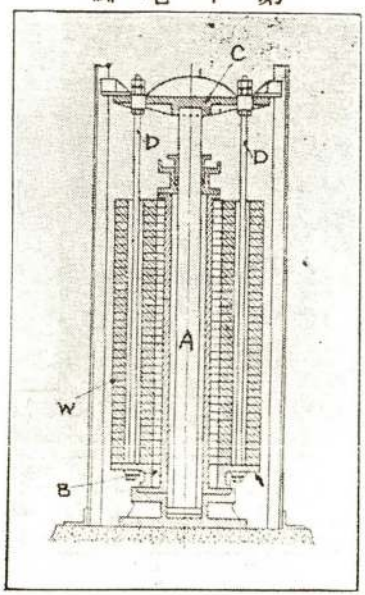
工學博士　堀　覺太郎

(二)エレベーターの種類及建築との關係

『エレベーター』なる名稱は米國にて呼ばるゝ名稱であつて、歐羅巴では英語を取りて『リフト』と呼んで居ります。日本では人荷用のものを『エレベーター』と稱し、料理用其他小規模のものを『リフト』と呼んで居ります。此名稱により現存せる『エレベーター』の種類を擧げますれば、

第一　『ダム』『ウエーター』即料理用手働

第十七圖



『リフト』

料理用『リフト』の標準積載量は

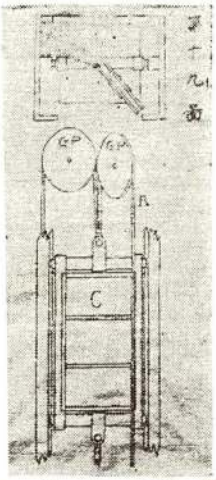
住宅用にては　二十乃至二十五磅

『レストーラント』用　四十磅

病院用　九十磅

倉庫用　百二十五磅

にして小型の『リフト』は第十九圖に示されRは手働『ロープ』R_1は『バランス』『ウエート』の『ロープ』Cは『ケージ』PCは『ガイド』『プレー』であります。

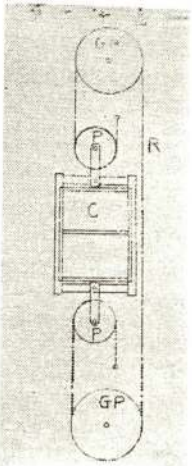


中型のものは第二十圖に示されRは手働『ロープ』Cは『ケージ』PPは『ガイド』『プレー』Pは力を倍加する爲の『プレー』であります。

大型のものは第七圖に示され附號も既に說明濟であります。

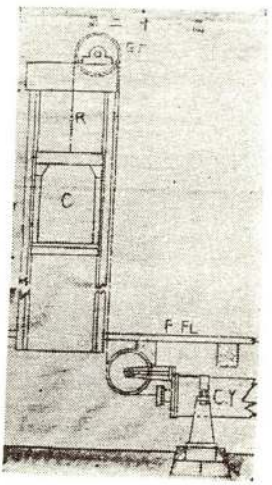
第二　人員用及荷物用『エレベーター』

人員用『エレベーター』と荷物用『エレベーター』とは其型に於ては相似たるものでありまして、今日では電力によりて運轉して居りますが、參考の爲に水壓式のものをも說明しようと思ひます。



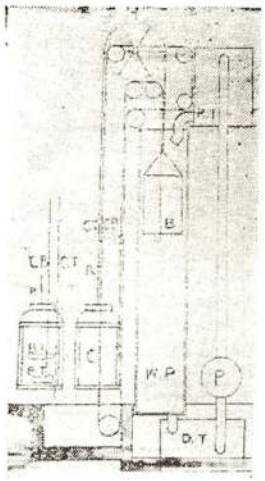
第二十圖

第二十一圖は水壓式『エレベーター』の幼稚なる型を示しCは『ケージ』Rは『ワイヤー』GPは『ガイド』『プレー』Cyは『ハイドロリック』『シリンダー』であります。『シリンダー』內の水壓は『ピストン』に働き此力は『ワイヤー』を通して『ケージ』を釣るのであり



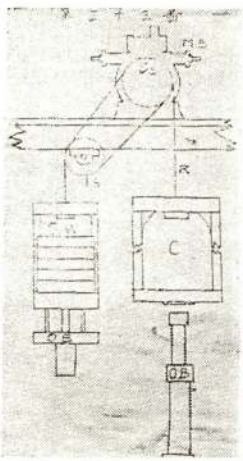
ます。

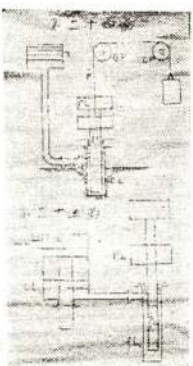
第二十二圖



第二十二圖は『ウオーター』バランス『エレベーター』を示しCは『ケージ』Bは『ウオーター』バケット』Rは『ワイヤー』『ロープ』RTは貯水『タンク』CTは『タンク』用『バルブ』開閉に使用する『ロープ』CBは『バケット』中の水を放水する『バルブ』用『ロープ』WPは排水溜DTは『ボットム』『タンク』Pは下部『タンク』より上部『タンク』に揚水する『ポンプ』BLは『バケット』『バルブ』開閉用『レバー』BTは『タンク』『バルブ』開閉用『レバー』であります。『バケット』に水を入れますと水の重量で『ケージ』が上昇し水を放水すれば『ケージ』の重量で『ケージ』が下降するのであります。

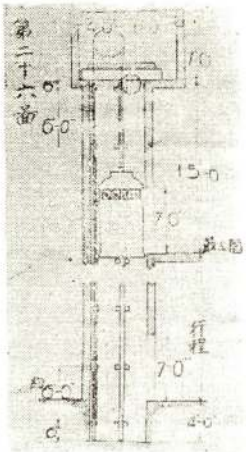
第二十四圖は直接働『ハイドローリック』『エレベーター』でありまして CL は『ハイドローリック』『シリンダー』P は『プランジャー』PL は『バランス』『ヴエート』R は『ワイヤー』『ロープ』GP は『ガイド』『プレー』T は水『タンク』であります。『バランス』『ウエート』は『ケージ』より重くしてありますから『シリンダー』より放水すれば『ケージ』は上昇し『シリンダー』に水壓を入れれば『ケージ』は下降するのであります



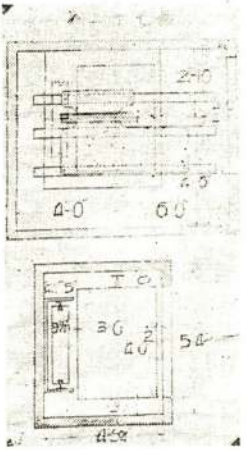


第二十五圖は『クラマー』式の『ハイドローリック』『エレベーター』を示し CL CL_2 は『ハイドローリック』『シリンダー』P_1 P_2 は『プランジャー』PL ハ『プラットホーム』であります。P_1 の『ピストン』になつ

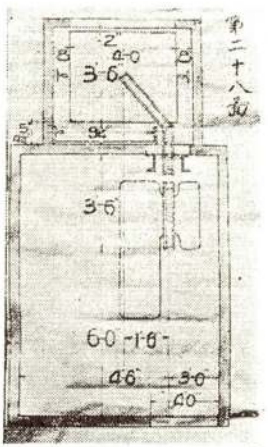
て居る、上面と下面とは面積が異る爲めP1の下の水壓は其上の水壓より高くなり、之れがP2の方に働く放水道の水を利用してもP2の所に適當なる高壓を得るのであります。

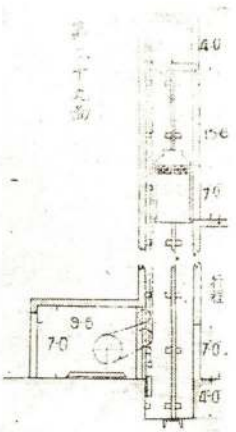


第二十六圖、第二十七圖は機械室を建築物の上部を置く人員用『エレベーター』を示し『エレベーター』と建築物との關係を示して居ります。



第二十八圖第二十九圖は機械室を建築物の下部に置く人員用『エレベーター』と建築物との關係を示して居ります。





するが、日本エレベーター會社に於きましては人員用、患者用荷物用『エレベーター』の標準積載量に付き各右樣の標準設計が出來て居ります

電動『エレベーター』には尙『プッシュ』『ボタン』式がありますが此說明は他日讓ります。

今茲に一言して置きたきことは『ロープ』を捲き上ぐる方法に付てゞあります。第一の方法は『ドラム』式と稱して第壹圖のものゝ進化したるものであります。第二の方法は『シーブ』式と稱して第十八圖の『ロープ』『プレー』を使用し一方に

『ケージ』を釣り、他方に『バランス』『ウエート』を釣り『ロープ』と『ロープ』『プレー』の間の摩擦を利用して『ケージ』を捲き揚ぐるのであります第一の方法は確かなる方法でありますが、揚程が高くなり『ロープ』が長くなれば『ドラム』を長くする必要があり、遂に實用的に設計することが困難になります。第二の『シープ』式も人員用程度で積重が普通なる場合には便利なる方法でありますが、積重が增し『ロープ』が長くなれば不確實なる恐れがありますから第三の方法、即ち『トラクション』式が建物の高さ百二十五呎乃至二百呎、或は夫以上の時に屢々採用されるのであります。『トラクション』式は第二十三圖に示されC は『ケージ』R は『ロープ』DS は『ドライビング』『プレー』IS は『アイドル』『プレー』MB は『ウオーム』『ギーア』『ボックス』CW は『バランス』『ウエート』OB は『オイル』バッファーであります『ケージ』釣『ロープ』は『ドライビング』『プレー』と『アイドル』『プレー』とに數廻捲付けられて居りますから『シープ』式に比して摩擦も數倍し確實に『ケージ』を捲き揚げ得るのであります。

(二)『エレベーター』の速度

『エレベーター』の昇降速度は建築物の高さと其使用の目的によりて遲きは毎分二十呎、速きは六百呎のものがあります。尤も鑛山用の『エレベーター』即『ワインヂング』『エンジン』では二千呎乃至三千呎の速度を撰びますが、之は深さが四五千呎もありますから此速度に設計することが出來るのであります。

『エレベーター』に六百呎の速度を採用する場合は『エレキスプレス』の場合、即一階より五階、十階と間を飛んで急行する時であります。

米國の例を申しますると『ウエチング』『ハウス』製六十七臺の統計を取りまして、

四階建築にて毎分

八階	二〇〇乃至二五〇呎
十階	二五〇乃至三〇〇
十四階	三〇〇乃至三五〇
十八階	四〇〇乃至四五〇
	五〇〇乃至六〇〇

になつて居ります。

獨逸では二十呎より四百呎迄の速度を採用し

荷物用	二〇乃至六〇
人荷用	四〇乃至一三〇

人員用　一〇〇乃至三〇〇
特別　四〇〇
日本『エレベーター』會社の統計によれば
荷物用　六〇乃至一五〇
人員用　九〇乃至二〇〇
是等の相違は全く建築物の高さの相違に起因して居るのであります。

(四)『ケージ』と積載物との關係

『ケージ』は稀に木製のものもありまするが概して金屬製になつて居ります覆壁の厚は『アングル』鋼等の爲めに一寸二三分を要し此内寸法を以て床面を定め人員一名の占有面積を假定して定員を定むるのであります。一名の占有面積は國々により區々でありまして、歐米にては一名二平方呎半重量は百五十磅として居りますが、日本にては一二名平方呎重量は百貳拾五磅と假定して差支なき樣であります。荷物の場合は積載物の大によりて一率には申されませぬが要するに一度に積込む最大容積と最大重量を基礎として『ケージ』を設計するのであります。

(五)『エレベーター』の檢査及取扱注意

第一は安全裝置の試驗でありまして、之れは實際使用の個所に於て實行するのでありますが『セーフチ』『キャッチ』等は製造所に於て種々の試驗をなし安全と認めて後機械に取附くるのであります。之が爲めに製造所は試驗塔を設置せねばなりませぬ。試運轉に際しては前以て各部を點檢し荷造の爲に塡充したるものを注意して取り去り注油に注意して電動機は濕氣を受けざる樣注意す可きであります。試運轉引渡後の注意に關しては取扱者に對する注意書を作り、取扱者が變つた場合に此書類を引繼ぐ樣にす可きであります。其取扱注意書に記す可き一例を擧げますれば

『ケージ』操縱の際『レバー』『コントロラー』を上昇より下降の位置に移す時には必ず一度停止の位置に移して『ケージ』を停め而して後下降の位置に移す可し。決して上昇より急直に下降に移す可からず。

『コントロラー』『ボード』及『チエンジヲバー』『スウイッチ』其他の電氣器具並に電線類は特に濕潤せざる樣注意し、且つ塵芥等を除去し常に手入を怠らざること、但し此取扱中は主開閉器により電流を斷ち置くことを忘る可からず。

右樣のことを各部に亘り記入したる注意書を取扱人に渡し置くことが必要と存じます。



家賃はどうして昂る？

玄黄子

「住宅問題」！、と譯なく一口に片附けて了ふが、恁麼抽象的な名辭はない。まあ試みに見給へ住宅を中心とし、住居を對象としての問題は何處までの範圍を有つてゐるかといふことを。こじつけぢやないが、まつたく、住宅は人生の凡ゆるものに交渉を有つてゐるのだ。住宅を全然埒外視して、何處に問題があるのだ？と被様に範圍を廣く觀なくとも、例へば住宅の保健問題といふことだけでも可成りな廣い復雑な問題である　就中、住宅の保健設備と住居人の經濟問題との交渉は、亦餘程あたまの惱む問題である。その他家屋の立方積や建築法規の干渉抔も、相當に難かしい住宅問題の一部であつて、その居住人の直接利害を構成する一因子だ、とも謂へる。わしは、此處で、それ等の内、家賃を中心としての關係を稽へてみたい。

現在唱へられてゐる處の、所謂住宅問題の内には、非衛生的な住宅を最も衛生的ならしむるよう

に改造することが、その一つである。殊に、社會の第三層以下――若しありとすれば――の住宅は一段と斯の問題の重要さを覺へる。けれども、その問題の難物たることも斯の下層に於て一入である。蓋し、住宅問題は飜て經濟的條件に權化すると同時に、經濟的條件は、結局、居住者の家賃に要約されるが故に、竟に、居住者は、ヨリ以下の――即ち問題の圈圍に在る家屋に住居を求むるか然らずむば、却つて不利なる經濟的條件を強ひられる結果と成り、茲に、問題は、何時までも循環するに過ぎないことになる　日本では、まだ斯うした經驗の仕樣もないが、亞米利加の最近な例に觀ても、住宅問題と謂はゞ、主もに非衛生的な住宅の改善といふことに問題が集注されて、餘程改善されたものゝ、その當然な成り行きとして、住宅改善（衛生的改造）＝建築費及維持增加＝家賃騰貴＝轉出、といふ事實を示してゐる。即ち、十箇年許筋の調査が聊か古くはあるが、折角改善された家屋に移轉した世帶數の六十三％は、その以前よりも一段と慘めな家屋に移轉したのである。被樣な譯であるから、住宅問題といふ廣い範圍に於ても、家賃の問題は、最も重要な位置を占めて、問題の奈何に仍つては、それを左右する程の重要さを有つてゐる。

Caral aronovici, Ph. D. 著の Howsing and the Howsing Problem に（「米國を中心とする住宅問題」）中に、家賃額を決定する自然の法則を掲げて左の說明を附して曰く、

A　其地方の住宅供給の增加がこれに伴はざる人口の增加は家賃を高める　經濟界が好景氣附いて、各種の事業が殷振を來すと、都市へ！都市へ！と社會第三層階級の集中するは、日本でも過去の好景氣時代に經驗された事實である。斯くして、人は殖へても住むべき家屋はそれに並行して殖えない。殊に、勝手放題に事業家や都市そのものゝ金儲けからの宣傳も、亦斯の勢ひを助長する。斯くして產まれるものは、曰く、密集生活、曰く、家賃の騰貴である。

B　家賃は建築物の高さの增加と共に增加す　土地を使用する施設は主もにその建築物の高さに關係してゐる。而して家賃は增加する。ロードアイランドの五箇の市に於

ける家賃の研究は、最も有力に斯の事實を裏書して、最も高層な共同住宅の發達せる地境即ち土地を強度に使用しある區域は、孰も家賃率が昂つてゐる、と云つてゐる。彼れは、伯林のエーバーシュタット教授の言葉「建築物高ければ家賃高し」を引いて、之を法則視してゐる。

C 土地價額は土地使用の強度に從つて增加し土地使用の強度は建築物の高さの增加と共に增加す

交通機關が完備せず、不完全なる都市設計に累されて、都市民の密集生活を餘儀なくされる他方には、都市の眞ん中に林野があつてみたり畑地があつたりして——公德上の——宅地需用が激增すれば、爰に土地の投機的賣買が行はれ、その結果は、住宅建築費を增加して、それが家賃に轉嫁されることゝなる。日本の大都市でも既に斯の弊が生じてゐる。大阪や東京の眞ん中に田畑や山林があつても、住宅建設の敷地は行き詰り、といふ不合理な現象を呈してゐるではないか。

亞米利加は、少くとも紐育市に於て、あの無制限な、突飛極まる高層建築を成り行きの儘許したゝめに、——云ひ換ゆれば、土地使用の强度を無闇に昂めたゝめに、今日では、幾十年或は幾世紀を費さねば整理し得ない程な亂雜さを來してゐる。而して、その都市當局者の深き悔は今鮮やかに窺ひ得られる。斯くて、紐育市抔の土地の價格と來ては、聞くも莫迦らしい程な事實を示してゐる。

D 空間一立方呎に對する家賃はアパートメントの大さの減少と共に增加しアパートメントの大さは建築物の高さの增加と共に減少す

亞米利加の大都市の住宅建築を、奈何に無制限な上層延長の儘に委すとは云へ、住宅建築としては建築費と收利の關係上一定の制限がある。殊にアパートメントの如き成るべく經濟的に、ヨリ便宜に、而も快適に住居を供給しようとするには尙ほ更らの事である。隨つて、一定のアパートに成るべく多くの世帶を收容せむとするには、どうしても、室の面積を少くして、その數を多くするの外はない。けれども、家賃は決してそれに比例して低下するのでなく、却つて、率に於て昂騰するのである。ニューエングランドに於ける九箇の都市に就いて調べた結果は、「建築物の大さが增

加し、之に收容されてゐる家族の數が增加するに從つて、必ず室の大きさがそれだけ小さくなつて居り、大建築物の各アパートメントに對する家賃は、少數の家族を收容する小建築物に於けるよりも平均高價である」といふ事實を示してゐる、とのことである。

E

土地改良の課稅及び土地の潛在價額に課稅しないことは建築企業を阻止する故に住宅供給の減少し則家賃率の騰貴を來す

廣い意味に於ける住宅政策の企圖に含まれてゐる處の目的に協ふように家屋を建築した場合、即ち最も保健に適し、相當に美觀を有し、頗る快適な住宅を作つた場合に縱むばその美觀が單に建築の仕方や材料の撰擇に熟練せることに因る場合でも、法規や慣習は惡歷事に頓着なくして、その定めた處の課稅を用赦しない。之に反して、非衞生的な損壞されたような家屋に、即ち住宅政策の最も呪ふてゐる家屋に住むでゐて、その土地の潛在價値を十分に發揮せしめないような怠惰ものには、却つて安い課稅に止めてゐる。その他、建築の發展を阻碍し、却つて建築物の集中を餘儀なくせしむるような害惡を與へてゐる處の彼の不動產賣買業者といふ土地投機者には僅かの租稅を課するに過ぎない。その他、曰く何、曰く何と、數へ來れば相當に弊害のある事實が多い。斯くの如きは、建築費の增加と成り、終いに家賃の過重となる。

F

新建築に對する嚴重なる規則が之に應ずる舊建築物取締の增加を伴はざるときは新家屋を建築するよりも寧ろ舊建築物の維持を奬勵することゝなる從つて住宅の資にはそれだけの增加なくして家賃を增加する

新しい建築に對しては相當に喧しい取締干渉をなして、舊い建築物は何等の干渉を受けず、而も舊い建築物より新しい建築物へ負擔を移すような課稅制度の下に於ては、新建築に投資する者は漸次減つて、その結果は、家屋の供給と需用の緊張せる關係上 竟に家賃の騰貴といふ事に落ちて來る

G

雇傭 娛樂及び文化の中心等に對する交通の便又は實際にそれに進むことは市の住宅の一部のみに與へられた都合に其便利に比例して家賃を高むる傾きがある

日本の都市のような交通機關の不備不完全な處では、勞働者の居住區域と仕事場所の聯絡が甘く行かない。殊に一家幾人から家族が共稼ぎに出るよう

な場合には、一層斯の關係が影響する。故に、勞働者は、怎うしても仕事を中心に居住しなければならぬから、交通機關の不備不完全は、竟に密集生活と家賃の不廉に思はねばならぬような結果になる。

以上概說した事が、先づ家賃決定の自然的法則だと謂つて可い。即ち、家賃の騰貴する原因は、如上の事實に在る。——少くともそれが樞要な原因である。

顧みて、我國に於けるそれ等の現狀は怎麼ものであらうか。第一の原因たる人口と住宅の增加が比例しないのは、單り大阪や東京の大都市許りでなく、地方の大概な都市は皆なそれである。只英吉利や亞米利加の都市程には切迫してゐない、といふに過ぬのである。幸に第二の原因たる高層建築物は、夙くも亞米利加の弊害に鑑みて、市街地建築物法上の最高制限があるから、而も現在に於ては幷ういふものは住宅として始むど皆無だから先づ斯の點に於ては安心してよからう。けれども第三の原因たる「土地使用の强度」は、前記の如く建築物の最高度を制限したとは云へ、現に我國の大都市は、建築物敷地の行き詰りに稍々惱み始めてゐるように憶はれる。故に、將來は餘儀なくも或る程度——或は法の最高制限までの高層建築は續々出來るであらう。隨つて、居住區域にしても、土地と建築費の關係上、成るべく屋數を增して、利潤を多く得むためには、勢ひ室の面積が狹く成り、その結果、比率上家賃の過重と成る、此處に第四の原因も同樣に見舞ふであらう。その他第五、六の原因たる法規關係に到つても、同樣に不備不周の點が少くない。殊に住宅建築に就いて又土地の利用に就いて、例へば英國の「勞働階級者住宅法」の如き、或は、現行「住宅——法」の如き積極的に住宅建築を規定したものがないからである。同樣に我國の經驗すべき事實である。若し夫れ第七の原因たる交通機關の不完備と、その他土地投機的賣買に到つては、我等都市民の現に實見しつゝあるではないか。被樣に稽へて來ると、日本の都市に於ける住宅問題も、將來、家賃問題が一段と緊張を來す事となるであらう。

并は兎も角として、現在我國の主要地域に於ける家賃と居住者の收入關係は、怎ういふ事實を示してゐるであらうか、之を大觀することは、前記の家賃問題と併せて、必ずしも無用の業ではあるまい。以下、協調會の最近調査したる資料を借つて、記者の觀る處を概敘してみよう。

調査の區域は、東北(秋田縣、福島縣)東京(東京府、神奈川縣)名古屋(靜岡縣、愛知縣)大阪(大阪府、兵庫縣)中國(岡山縣・廣島縣)九州(福岡縣、長崎縣)の六地方二府十二縣、職業は官公吏、敎員、會社員(以上精神勞働者)と職工(筋肉勞働者)の二者に就いて調査。斯くして、調査當局者は、左記の原則を歸納し得たとのことである。

(一)收入に對する家賃の割合は減少す。
(二)家賃に對する敷金の割合は增加す。
(三)同造作の割合は不規則なり。
(四)家賃の疊一帖當は增加す。
(五)一人當疊敷は俸給生活者は增加するも、職工に在りては減少せり。
(六)一戶平均人員數は增加す。
(七)同室數は增加す。
(八)同疊數は增加す。

而して、家賃と收入との關係を、俸給生活者と職工との二大別にして、各の收入別平均に觀れば最低月收五拾圓を單位として、それより五拾圓增しの最高參百圓までの各家賃の平均負擔率は、最高二割二步强、最低一割强となつて居り、全體の平均としては、一割四步三厘弱に過ぎない。元來家賃は收入の幾割を以て妥當とすべきやは、縱むば同額の收入にしても、必要的生活費の負擔率奈何によつて異るが故に、必ずしも權威的な原則を抽象し得ないが、先づ大體に於て、收入の二割といふことを唱へられてゐる點より觀れば、斯くの如く我國の勞働者——精神的、肉體的のそれは寔に幸福な現狀に在る、とも云ひ得られる。併し現在のような不便と非衞生と沒趣味な日本流の家屋では、必ずしも家賃負擔率の低いのを慶ぶ譯には行かない。參考までに、今少しその內容に就いて左に誌してみよう。

俸給生活者

月收	一人當疊數	家賃の疊一帖當圓四四	收入對家賃	家賃對敷金	家賃對雜作
五拾圓迄	三疊九	○●七○	一割二八四	一二割○八一	三割三○三
百　圓迄	四●二	○●八三	一●三六二	一三●九五五	五●六三○
百五拾圓迄	四●四	○●八七	一●三○六	一四●六四七	一●七三六
二百圓迄	四●三	一●二○	一●○六七	一三●○三九	○●一○九
二百五拾圓迄	四●八	一●四○	一●一八二	一八●一○七	——
三百圓迄	五●○		一●四四○	二二●　六三	——

職工

五拾圓迄	二●八	○●五八	一●一四九	一一●一七一	一●八三七
百　圓迄	二●六	○●八四	一●二五○	一一●二○九	一○●九六四
百五拾圓迄	二●七	○●八九	○●九四五	一三●六六九	八●四二九
二百圓迄	二●五	○●九五	○●八八○	一八●六五○	八●八八一
二百五拾圓迄	二●○	二●一七	一●○八三	三八●四六二	七六●九二三
三百圓迄	（不明）				

以上の統計は、僅に幾十幾百の戸數に就いて大體の基準を得たのに過ぎないから、之を、少くとも我主要都市中産以下の各階級の最大數に就いて研究したならば、或は意外にも以上の外なる事實を握り得るかも知れぬが、前記だけの事實に就いて觀れば、大體中産以下の收入を有する者にして一人當の疊數最少三帖以上五帖にも及び、家賃の割を最高となつてゐるのは、我國社會問題の種子が、まだ〳〵左まで芽を吹いてゐないものゝあるを懐はせる。件の調査者は、それ等統計の歸結に

附記して、收入五拾圓までの階段と二百圓以上の階段とに於て、收入對家賃の比率不規則なるは要するに、五拾圓までの階段に在つては、收入寡少の必然的影響として、彼等は陋屋に居住するの餘儀なき結果であらう。次いで、二百圓以上の收入者に於て居住費の割合に高率なるは、收入額が生活費の必需級を超へる結果、彼等は必要以上の邸宅に居住するからである。而して、標準生活費なるものは概ね此の附近を往來する、と述べてゐるが、採つて吾人の參考とするに足る。併し、シユワーベーの法則は、收入の減少に正比例して家賃負擔率は增加する、と云つてゐるが、件の現象から觀れば、收入の增すに從つて家賃負擔率の增加してゐるのは、一體怎うした譯であらう?。左にチャツピン博士の調査に依る紐育市の生計調査を掲げて家賃問題の參考としよう。

紐育市の生計調査（生活費の百分率）

所得高(弗)	食料%	家賃%	被服%	點燈及薪炭%	保險%	衛生%	車賃%	雜費%
四〇〇—四九九	四〇、八	二六、八	一三、〇	五、六	一、二	三、一	二、六	六、九
五〇〇—五九九	四四、四	二五、九	一二、四	五、九	一、三	一、九	一、八	六、四
六〇〇—六九九	四四、六	二三、六	一二、九	五、八	二、〇	二、一	一、七	七、三
七〇〇—七九九	四五、六	二一、九	一三、四	五、〇	二、五	一、九	一、五	八、二
八〇〇—八九九	四四、三	二〇、七	一四、〇	五、〇	二、二	二、七	二、〇	九、一
九〇〇—九九九	四四、七	一九、〇	一四、六	五、一	二、六	二、六	一、五	九、九
一〇〇〇—一〇九九	四四、七	一八、一	一五、五	四、五	二、五	一、五	一、八	一一、四
一一〇〇—一一九九	四五、六	一六、二	一四、九	三、八	二、五	三、六	一、九	一一、五
一二〇〇—一二九九	四五、〇	一九、八	一五、三	三、八	二、二	一、三	二、二	一〇、五

大阪土木建築業組合の決議

保證金徹廢の實行に就いて既に主張の勝利を得たる大阪土木建築業組合は、曩日の總會に、今度は、所謂有料見積問題が顯案されて、遂に可決したとのことである。件の兩問題の如きは、その可否に對する見解の如何にもあれ、正さしく當業者の社會的地歩をそれだけ進めたものである、と云つて可い。當日は、斯の問題に對して、相當に議論もあつたようであるが、その中福島支部の山本辰五郎氏が述べた意見の如きは、斯業に對するその業界の大勢を知ると見るから、それの概要を此處に揭げて我建築家の參考に供することゝしよう。

『諸君本日の議案たる有料見積は只今組長より縷々御說明がありましたが、本議案の擡頭致しましたのは、四年前即ち大正九年三月二十四日本組合の總會に於て、保證金徹廢問題と同時に之を提出致す筈でありました。其當時は、時期尙早との理由の下に、評議會に於て否決せられたのであります。然るに、今回時期到來致まして、議案として此處に現れましたのは、諸君と共に欣幸とする處であります。此有料見積は、自分の請負ふ仕事を自分が見積るのでありまするが故に、無料で見積ると云ふのも、一面に於ては理由がないでもありませぬが、諸君、仕事は一つで、之を見積る人は二人以上、若しくは五人十人と云ふ有樣で、而して工事を請負ふ人は一人であります。隨而、其他の我々が心血を濺いで完成したる見積書は、何等の効を奏せず徒勞に期すのでありますから、茲に有料、無料の分岐點が生するのであります。我々が工事見積を依賴されまするとを光榮とし、又工事請負を致度爲め、仕樣書及圖面に基きて精心的に採算し、少し面倒なる工事になりますと、少くとも三萬字以上も書くのであります。此見積書に現れました文字は、その一字一字が私共の精心的力行の結晶だ、と申して差支へないのであります。諸君、三萬字以上の文字は、生臭坊主のお經文に致ましても、大分價値がある筈ではありませんか。然るに 我々が如斯苦心を重ねて採算しついに調製致ましたる見積書は、落札せぬと同時に之を注文者に沒收せられ、加ふるに一偏の挨拶もないのでありますと共に、その他面には、之れが爲め注文者は多大な便宜を得又利益を得るのであります。されば見積に對する實費は、經濟的の原則でありまして、之を申受くるは當然であると思ひまするが故に、私は茲に本案に對して滿腔の大贊成を表する者であります。諸君に於ても滿場一致を以て御贊成有らん事を希望致して止まざる次第であります』斯くて所謂有料見積問題は滿場一致を以て可決したのであつた。



東京建築界だより

佛蘭西現代美術展覽會の結果と建築——洋畫と建築——科學と美術、實用と美の問題としての海軍省内の無線電信柱

文學士　黑田鵬心

□上野に開會の國民美術協會主催佛蘭西現代美術展覽會に開會前の準備から關係してゐた爲めに、三月の下旬から今日迄一ケ月半全く原稿紙に向はないでゐたので、本誌にも二ケ月御無沙汰して了つた。佛蘭西現代美術展覽會は、繪畫百八十點、彫刻四十四點の貰約で、金額十七萬圓に上り、大成功を以つて閉會したが、かく多數の比較的高價な洋畫とブロンズ彫刻とが賣れた事は、建築との關係が少くないと思ふ。

□日本風の建築の裝飾として日本畫が適し、西洋風の建築に洋畫やブロンズが適當する事は云ふまでもない、今回佛展の洋畫やブロンズが賣れたのも必ずや多くは西洋風の建築を裝飾する爲めに違ひない。乃ち其の事實から推すと、建築について

二つの事が考へられる。一つは西洋風の建築が增加しつゝある事である。一つは西洋間の裝飾には何でも洋畵でさへあればいゝと云ふのでなしに、相當な立派な油繪で裝飾せねばならぬと考へられて來た事である。

□西洋風の建築の增加しつゝある事、殊に住宅に於いて洋風の增加しつゝある事は、此の兩三年頗る著しい現象で、東京や大阪の郊外を一見すればすぐわかる事であるが、卽ち其の裝飾として洋畵が必要なのである。現に佛蘭西美術展で、今建築中の部屋に懸けるのだと云つて買つた人が尠くなかつた。

□從來は日本室の床の間には新しい所でも相當の名のあるものを懸けてゐる人が西洋間には油繪でさへあればよいと思つて、名も知れない安油繪を懸けてゐた人が多かつたのであるが、近頃洋行する實業家が向ふで名のある人の繪を買つて來て懸け始めたので、日本にゐる實業家も今迄の無名の安油繪では我滿が出來なくなつた所へ、丁度佛展が開かれたので、居ながらにして西洋の相當の名のある人の繪が手に入るといふ好都合が生じたのである。

□卽ち半分は友人などに對する手前から、半分は自分の趣味の向上から、相當の立派な油繪を買ひ始めたので、趣味の向上といふ點からは無論よい事で、建築の爲めにも亦歡迎すべき事である。建築家が折角立派な設計をしても、石版繪やペンキ繪みたいな安油繪を懸けたのでは、侮辱された事になるが、ルノアール、ダニアン・ブブレ、コランなどは勿論モリス・ドニとかシャルル・コッテとかブラマンクとかラブラード、グランなどの繪で裝飾されゝば、建築も尊敬された事になり、益々建築の美が發揮される事になるのである。

□海軍省構內に建てられた三基の無線電信の大きな高い柱は都市研究會の問題にもなつてゐたが、都市の美觀上甚だ困つたものである。殊に隣が東京市の中央公園たる日比谷公園であるから一層困る。

□科學と藝術、實用と美とが往々背馳する事は從來から云はれてゐるが、我々は其の合致を理想と

し、希望してゐる者であり、或る程度迄一致し得ると信じてゐる者である。電柱を廢して地下に埋めるとか、電車の色を綠色に塗るといふやうな事は、即ち其の例となるのであるが、海軍省の無線電信の柱は非常に高いもので、現在の形や色では誠に都市美を害するものである。

□せめて曲線を美しくしたならば、パリのエッフエル塔を少さくした樣で、一種の美を生ずるであらうが、現在のやうに角があつてはゴツ〳〵してよくない。又色も空色に塗るとか云ふ事であるが現在の色よりもつと美しい色は色々ある。色だけでもせめて早く塗り直して貰ひたいと思ふ。

□無線電信の當局者などは、眼中無線電信のみあつて、藝術とか都市の美觀とか云ふ考は一向ないのかもしれないが、苟もあんな高いものを建て、一里四方からも見え、殊に都市の美觀に役立つ日比谷公園が隣にあるのを知つてゐる以上は、もう少し考へて貰ひたいものである。室内でやる事ならどんな醜い形でも色でもかまわないが、あんな高いものを建てるのでは、敷地が自分のだからと云つて濟ましては居れない筈である。

□それは移して以つて總べての大建築に云へる事で、すべての大建築は、敷地は無論自分の敷地であつても、他から見える以上は、他の地所までも使つてゐるものと考へて貰はなければならぬ。若し其の都市の全部から見える高塔の如き建築であつたならば、其の都市全部を敷地とした心持で居らねばならぬ。それだけの責任を有すると同時にそれだけ廣く効果を及ぼす權利を持つてゐるのである。

□近頃盛に建てられる高層建築は、すべてその例とする事が出來る。大阪の控訴院の塔の高きは、其の責任と權利と共に大なる一例である。全市の人々から其の美を仰がしめる事も出來れば、又反對に嫌惡の感を抱かしめる樣にもなる——建築家の責任と權利とは頗る多大であると云はねばならぬ。

□これから一寸大阪へ行きますから次號には何か大阪の建築について感想を送る事が出來るかと思つてゐます。（五月十七日朝東京）

滿鮮雁信

拜啓

此度滿鮮視察團組織に關する御配慮忝なくと存じます。唯關西方面から唯三人丈しか參加し得なかつた丈が遺憾だと思ひます。

三人(谷、清水、波江)共無事神戸より上陸二十二日正午出帆……今朝八時門司着、直ちに一行と共に下の關に上陸。

赤間宮參拜、阿彌陀寺稜參拜、春帆樓に少憩。關門の青葉を眺めながら第一信を送ります。一行十三名(一名は門司より參加)之に久留君を加へて十四名となります。

橘　　節男(東京高工教授)		曾根田又雄(日本水道東京支店支配人)	
山田　寅雄(自營)		瀧津　眞六(長野葛西事務所)	
島田　　藤(島藤本店)		中村　　寛(內務省都市計畫)	
田中　正義(東大助教授)		佐藤　茂助(醫視廳)	
今和　次郎(早大教授)		波江　悌夫(片岡事務所)	
谷　　民藏(日本エレベーター專務)		清水　榮二(神戸市役所技師)	(以上神戸乘船)
中島　外吉(田邊中村事務所)		久留　弘文(東道主)	(以下門司乘船)

二十二日午後一同喫煙室、會合決議左の如し

1、團長を選ぶこと

これは「波江」選ばれたり、甚だ迷惑ながらどうせ小使となる積りで承諾

2、幹事四名を選ぶこと

瀧津、島田、田中、佐藤、この人々は目下學會の役員なれば適任なりとて一同承諾

これで視察團が成立した譯です。

3、京城の建築會から注意あり、

五月五、六兩日は京城のホテル皆滿員となる樣子なれば一行五月七日に京城入とされたき旨の紹介あり。これは尙研究すること。

4、不慮の事件

又は至急要件等ありたる時紹介宛名左の如く定む。

滿洲 … 小野木氏宛　東京 …… 建築學界宛　大阪……日本建築協會宛

從つて參加團家族よりの聞合せも協會宛の積りなればよろしく特に御願ひ致します。

5、一行旅行中の都合

イ　谷君は大連上陸後都合によりては自由行動をとるやもしれず。

ロ　清水君は奉天歸着後大連へ引返すやもしれず。

6、船中食事後一時間宛

喫煙室にて會談すること。

以上急のため取急き御報いたし候。尙後便に託し候。

四月二十三日正午　下關門司船中にて　波　江　悌　夫

日本建築協會理事會御中

瀨戸內海航行

至極平穩、海上鏡の如し、一行輪投や將棋で無事に遊ぶ。夜は喫煙室でビールを抜いて痛喰する。

第　二　信

二十三日午前八時門司着、一行直ちに「ランチ」で下關に上陸しました。見物が目的といふ連中と「フグ」を食ふといふ連中と東西に分れた「フグ」の連中は先づ赤間宮に參拜、阿彌陀寺陵に詣で、夫れから「大吉」といふに尋ねたれど、時外れで斷られ、仕方なく春帆樓に乘り込んだ、今日は赤間宮の御祭の前日で何處も忙しいといふので「フグ」は愈駄目……一同命拾ひとなる。春帆樓では忙しい中に茶菓を出した。一同日清談判當時の記念室を觀て記念の寫眞帖、繪葉書なんどを手にして三十年の昔を偲ぶ。

李鴻章の旅館だつたといふ引接寺をも訪問して夫から市内を視察(?)して午頃に歸船した。

別府から久留君と朝鮮へ急用に行つた、中島外吉とを迎へて一行十四名となる。午後一時無事出帆した。

支海風浪あり一行元氣稍ひるんで見えたが、半日ゆれて居る間に船に慣れて食堂は相變らず賑ふた。

甲板で輪投げと「デツキゴルフ」が行はれた。夜に入つては談論とトランプと將棋と圍碁と時の移るを忘れてゐる。

二十四日　曇

朝船は朝鮮西南隅の多島海を走つてゐる(昨夜二時、時間を三十分遲らせた)珍らしや朝鮮の島山、左右に迎へ來るもの大程無人島であり「ハゲ」山であり突兀としてゐる。

「やあ、人家が見える」

といふ左方の島には朝鮮風の民家が五六軒見える。少し大きい島には青々と島も見える。山は「ヤセ」てヒヨロヒヨロ松の七八本瀨戸内海の島とは大分趣が變つてゐる。

黃海に入つては油を流した樣な海面をスベつて行く、少し寒い、一同喫煙室に集まる、トランプがはづむ。

建築に關する議論も大分盛んだ。構造論藝術論、建築家と社會との關係、請負業者の働く方面に就いてなんど若手連の多い事故無理もない。

滿鮮視察團の耳には滿鮮と國策といふ事や、對支外交とか、山東問題と關東州經營とか大分聞かされた。

此夜、三等船室で活動寫眞があるといふので八時頃出掛けたけれども、天井の低いのと寫眞の不鮮明で、一同閉口ソコソコに引上げる。

二十五日　快晴(昨夜二時又三十分時計を遲らせる)

黃海の眞只中を走る船は些の動搖を感じない。船の上に居るといふ事も忘れてしまつてゐる。子供連の元氣な聲を聞いても解る。午後一時頃、大連に着くといふので只今食事を始めました。以上

二十五日　正午　　波江悌夫

建築協會理事會御中

北米の一角より

ひろし

日本の思想界の趨勢に對する理解ある紹介

外國に居ると、日本に居つた時よりも一層日本の現狀、その將來の發達といふことが氣に懸るものである。殊に米國の如き廣大なる土地と巨大なる富を擁してゐる國に在つては、日本國の物質的發展に就ても考を促がせられる。その精神的發達の點は一層に痛切に注意せしめられる。健全な强國な精神的發達の背景がなくば、物質的發展が永續するものでない。これとゝもに日本固有の古典的文化に、もつと一層深い注意を向く可きであるといふことも痛感せしめられる。俳句や短歌が强い引着力をもつて迫る。支那の老莊孔孟の思想が鮮かに燦いてくる。

かういふ心理狀態から、新聞雜誌などに散見する日本に關する紹介なども、興味と幾分の懸念とをもつて必らず讀むのである。今左樣いつた類の紹介の一つ二つを擧げて見やう。

アンチミリタリズムの新時代

外國に行かざる者の各國に就ての知識は、新聞雜誌書籍による外ない。否外國に行つても之れ以外に道を求むるは難しいのである。隨つて我等が公平にして眞相に觸れた紹介であると偏見や中傷の混つた紹介であるとは紹介さるゝ當事國にとつてはこの利益と迷惑とは一通りでないのである。眞の知識なき者等は、目的をもてる宣傳も容易に信じ易いのであるから。

ワシントン會議以來、日本に對する公正なる紹介がチヨイ〳〵現れる樣になつた。

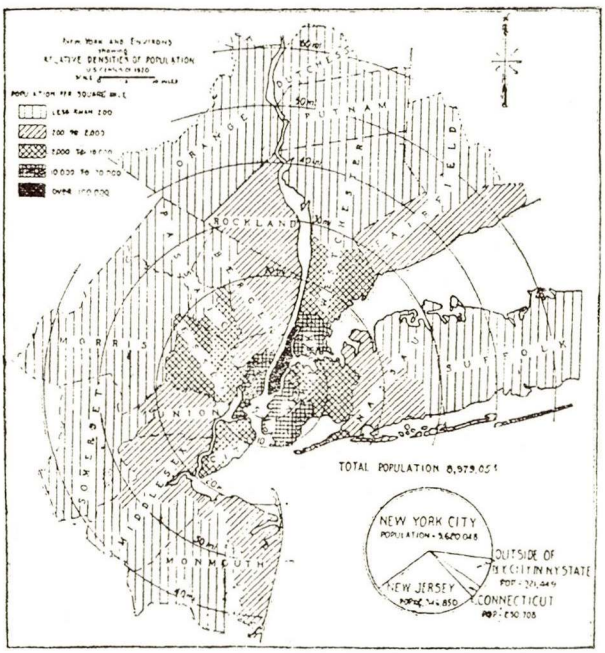
キリスト敎界の雜誌であるが『大陸（コンチネント）』に、博士シヤーウッド・エッデイ氏――恐らく日本在住の一敎師であらう。外交上より見るも、米國のキリストの勢力の無視され得ないのはいふ迄もない――『日本に於ける眞の新時代』ある一文が掲載してある日本に動いてゐる新なる變化の狀態は、摑んで如何にもよく正鵠を得てゐる。

氏は四年前日本を去つて、今回再渡來して、その變化の著しいに驚ろいたとある。この理由を十に分けて記してゐる。（第一）新指導者の起つたこと。軍國主義者鐵血政治家寺內に代つて、日露戰役に東鄕の英惟幄として對島にバルテックを擊破したその人ではあるが、併しワシントン條約を忠實に遂行しつゝある平和主義者加藤首相の代つたこと、青島西伯利亞その他の撤兵や一萬二千人の海軍々人の非役編入のことなど記してある。（第二）軍隊の不評判なこと、將校志望者の尠いこと（第三）偏狹な愛國心が國際主義に代つたこと。敎授も學生も新聞雜誌も大膽に政府の舊政策を攻擊してゐる。（第四）今日は社會主義、ラヂイクリズムが自由に論議せられ、又大學に研究さるゝこと マルクス・レニン・トロツキーのものが學生に熱心に讀まるゝこと。（第五）皇室に新時代の空氣の呼吸せられあること。（第六）インダストリアリズムの新經濟時代の來つたこと。日本の富は一九〇五年―一九一九年間に一一●〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇より、四三●〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇に增加したが國民は貧窮にして生活の困難上下を通じて甚だしきこと。衣服類三倍、食糧四倍といふ割合に戰前より騰貴して下らぬこと、失業者が溢れてゐること（第七）新勞働運動勃興し、その背後に貧困狀態の不滿なる國民の後援あり、政府部內の少壯官吏中その同情者が多きこと。（二ノ八）日本に普通敎育が普及してゐて、兒童中男子九十パーセント、女子九十八パーセントが就學登記がしてあること。ラヂイカル不自由な思想の日本高等敎育を受けてゐる學生の中に浸潤してゐることは、米國學生よりも濃いこと東京帝國大學々生を評準とした統計

に、彼等中五十パーセントは無頓着高い理想のない物質主義者、十パーセント保守主義者、廿パーセント自由主義者、廿パーセント急進主義者（第九十）に國民の中に美と禮辭に對する新なる空氣が動きつゝありキリスト教徒は此四五年間中國民の出産率よりも高い程度で増加し來つたこと。現在この數廿萬餘なるも二百萬人にその感化あることが記してある。

新築の帝國ホテル

西村女學校と帝國ホテルは、一は精神上の、他は物質上の、新日本の代表者として紹介してある。主任役たる與謝野あき子女史のことも、日本に於ける最自然その多忙な、又ブリイリマントな婦人としてその短歌も紹介してある。若し新日本の——日本々來の精神をもつて、西洋精神を表現したるものとして西村女學校を紹介するならば更に他のこれよりも（羽仁もと子女史の經營になる）一層健實な國民的土臺となる意味に於て——着實なじみな強國な實際的キリスト教的精神の濃厚な、自由な新なる型の女學校を紹介す可きであつたと思ふ。西村氏のは文學味の多い上品な異教的精神の加はつた學校である。



併し本誌の讀者には帝國ホテルの建築批判の方

が興味深いだらうから、これを紹介しよう。筆者はグレエース・トムソン・セトン、タイムスの日曜附録のマガヂーン・セクションに載せてある。

『西村女學校は全く外國的表現をなせる日本、帝國ホテルは日本の土壌の上に表現せられた外國である。併しこれは何處の國にもつて行つても、外國の建物である。こうした建物は人類が木と石をもつて遊ぶに到つた以來建立されたことはなかつた。かういふ樣に一人の建築者の頭腦から出た想像を、伸縮を許さぬ固形的材料に、その靈感を結晶したることは、人類の歷史にないと言つてよい此殆んど禮拜所にも等しい不思議な建物を日本人は誇つてゐる。いはゞ石の說敎であり、あらゆるものに於て善いものである。或人は好くか、他の人は好まぬか何かである。舞踏場、水泳場、劇場樣々の花や噴水のある庭々に面した無數の公集會室を含んでゐる驚く可き建物である。誰でも、彼の人でも、彼女でも、間接の燈火と同樣のヒートのある寢室とに、西洋の生活を卒急に實現しようと思ふ時に、こゝにこの一つがある。ではあるが美はこゝに保持せられてゐる。そして我々はいつも歡喜と悲哀の二重の杯を飮まねばならぬのであるから、私は彼の夢を實現するために七年の生涯をすごして、之れが實となつたことゝ此理想の光榮化のために六百萬圓を投資した帝國の投資者と冷靜な事務家のあるを喜ぶ。日米協會の金子々爵は『帝國ホテルは我ものである。他にあの樣なものはないと誇つてゐる。面の粗い孔をもつ日光石が(前には使はなかつたのであるが)用ひてある。或嘲笑者は言つてゐる。これでは日本の帝都を困期的に襲ふ地震がやつて來た時には、一たまりもなく行くだらうと。

一の公の室から他の公の室につゞく、不思議にうねりくねつてゐる通路、昇り降りの階段、寢室の廊下にそふた私室、何れも粗い黃ろい煉瓦石が用ひてあるのであるが、これを孔のある日光石がそのもちまへの輕い灰色をもつて、色彩の對照を與へてゐる。部屋の中でも此石や煉瓦が直接に露出してゐて、壁土や惟をもつて和げる如きことはしてゐない。此輕い構造石の露出がその熱心な極

めて小さい指をもつて、狹い隅を急に轉ずる人々の絹や繻子を摑む。でもこうひつかゝれたからとて決してその繻子はよくなるのでもないし、その衣服の所有者の氣分にそぐふものでもない。これは寢室の粗い上壁も同樣である。內部の線は角をなしてゐて曲線をなしてゐない。家具をもて特別なる裝置をしてある此鋭い陽も、一層の用心を人に與へるだけである。到る處に用ひてある大きな床石は進むごとに一づゝ〳〵數へられる位あらく置いてある。

こういふ具合にこゝには幾分の野性さがあるが併しその結果は頑丈さと美しさをこれに與へてゐる。清新さと男性的趣である。

こういふ樣に人々がホテルにさへ結晶した觀念を與へる處、ミカドの國ライジング・サンの國に生々した國民的アスピレエションのあることを示してゐる。

此は電話が小部屋に裝置してあることの嬉しさ（米國には電話は卓上電話の如きが、壁に着けてあつても、凡て表に露出して電話室などはない）や浴室のことも記してゐるが、こゝに書く程のことでもない。

次信には米國固有の秘密結社K・クックス・クランのことを記さう。

米國民の特質

米國民は一躰如何なる國民性を有してゐるものであるか。現在の思想の傾向は如何なる方面に重に向ひつゝあるか。といふ樣な問題を考へ來る時に、成程實際的な商本主義的な權威文明の特質を最もよく現はし、且つその能力を多分に持てる國民であるといふ樣な箇條を擧げることも出來やうかとも思ふが、併し實際に於ては今日の米國民程樣々の中心を有しとり〳〵の渦巻をもつてゐるものはなからう。勿論その上に立つて中心をしかと把持してゐるものは、アングロサクソン系のプロテスタントの强固な道德力と、明かな宗敎心ではあるが、併しこゝに一々統計を示す迄もない程に明なる如く、實に夥しいナショナリチイが混在してゐる樣に、各種各樣の性格が現はれてゐる。そ

して、これが幾何かの星霜を經たならば、渾然としてこゝに新たな國民性、それは英國民とも違つた又他の歐大陸とも違つた一種の性格が現はれるのではないかと思はれる。

確に移民によつて米國は損もして居るし、又利益もしてゐる。米國民が著しく現世的に物質的に墮しつゝあること、道德の弛緩が甚しいこと、今日殺人數と離婚數は日本を凌駕してゐることなど甚しいものがある。英國に於ては各六十三萬三千人に對して一人の殺人ある割合であるに合衆國では各一萬二千人に對して一人の割合となつてゐる離婚數の如きも市俄古市では昨年結婚三萬九千件に對し離婚數一萬三千件に上つてゐる。尤もこれは無屆で結婚する者が數が多いから、結婚數はこれより以上ではあるが併しかゝる時代の傾向を慨し、これを手嚴しく彈劾する偉大なる勢力があるが故に、米國はその位置を保つてゐるのである。それはプロテスタントキリスト敎の勢力である。その廓清力である。米國に於てはキリスト敎は社會の一勢力であるが故に、新聞にはその情勢が日常の一事件として報道されてゐる。牧師の社會上の位置と尊敬とは別種のものがある。クウ・クックス・クランといふ秘密結社を指彈するものは敎會である。黑人が白人と無差別に取扱はれてゐる處も敎會である。穢面の勞働者がミリオニヤと同席し得る處も敎會である。國家間の紛擾に平和なる解決を與へんと努力す者、弱少なる國民の無意義なる虐を蒙れるを憤慨するものも敎會である——軍備縮少を最も有力に聲援したるは敎會であり、先きの土耳古のアルメニヤ人逆殺に、直に紐育に各派聯合の大會を開き示威運動を起し、新聞雜誌にその罪惡を論じたる、又被害地にあつて最も勇敢に救助に從事したのもキリスト敎である——此勢力が米國の良心である。しかも此勢力は年々增加しつゝあることは他の事實がこれを證明してゐる。現在米國のキリスト信徒の數は五千萬人に達し、それが內國及び外國の宗敎事業のために年々費やす金額が三億弗に上つてゐる。これ凡て課稅でなく、自由意志の寄附による金である。而してキリスト敎徒の數が、米國民人口の增加率を凌ぐ

勢をもて、增加しつゝあるは千九百六年に、米國民人口八千六百六十四萬六千三百七十人に對し、キリスト者の數三千五百六萬八千五十八人、即ち人口の四十パーセント四の割合、千九百十六年の暮に即ち十年後に人口は一億百四十六萬四千十四人たるに對し四千百九十二萬六千八百五十四人、即ち人口の四十一パーセント三であり、五年後の千九百廿一年の暮には四千六百五萬九千五百人、即ち五年間に四百十三萬二千六百四十六增加したことになつてゐる。而して此千九百十年より千九百二十年間の人口は一億七百十三萬二千六百七十八人となつてゐる。キリスト者の數は人口の四十二パーセント强となつてゐる。此事實が米國民が尙ほ國民として强固なる土臺の上に立てるを立證してゐる。

最早米國民は人口の現在の率から言つても、又その生理的精神的の點から言つても、歐洲移民を絕對制限す可き時代に早くより達してゐるは樣々の方面より旣に論ぜられた事柄である。然し此聲は隨時隨所に上つてゐる。最近にもプリンストン大學の生物學の主任敎授コンクリンの主唱の下に移民制限の目的を貫徹する會合が成り立つた。彼は生物學上の見地より異種多樣の血の混入が國民を亡ぼす可きを主張してゐるのである。

併し又こゝに他面より考ふるに、米國は移民によつて今日の開發に達したるは言ふ迄もない。サーヴエなる米國で社會問題に關する最も良い雜誌はネグロ號を發刊して、如何にネグロが北米國の富に貢獻したかを明にしてゐる。現在コロビヤ大學の電氣學の敎授で、世界的に知名なる人が、或雜誌に自傳を載せてゐる。彼は移民の一人であつた。友なく金なく米國にたどりついた新聞の賣子を始め樣々の下等なる職に從事し、或時は宿る金なくして廣莊なるプリストン大學を目前に見る樹蔭で一夜を明かしたこともある。かうして彼は遂に米國に貢献する一學者となつたのである。彼は移民の輕す可からざるを論じてゐる。

こゝに樣々の例を引證することは許されぬ。試みに今日實に旺んなる光景を呈してゐる米國の音樂界を見るもこのことは分る。音樂の如きは全然

尚等移民のお陰であつて、若し彼等なくば米國音樂界は實に貧弱なものに過ぎなかつたらう。女流聲樂家でアルダ、ベザンソニイ、ボリイ、カルベ、ブラスロウ、ガリ、クウチ、メルバ等、男性聲樂家でアマト、バッチスチンイ、シャリヤアピン、コロー、トマゴ、ツアネリイ等、ピアニストではバデレウスキイ、ラクマンノフ、バイオリニストではフリッツ、クライスラー、エルアン、チムバリストハイフェッツ皆左樣である。

思想界の現象

人種及び氣質傾向はかく雜多の如く見ゆるも、併し思想上の現象になると割合統一がされており且つおちついてゐる。此點に於て日本程混然雜然たる國はなからう。泰西のあらゆる思想が流入して來る。そしてそれが浮薄なる時々の流行を造るそして蜉蝣の如き生命を維持する。この點は思想界に限らず、服裝、居住、食物の點でも日本には世界のあらゆるものが集つてゐる。こちらへ來て驚くのは野菜類の比較的尠いこと獸肉が主食で魚肉は殆ど食はぬといつてよい位稀にしかテーブルの上に上らぬことである。これに比べると日本は實に便利ではある。野菜、果物の如きもあらゆるものがある。日本固有のもの南洋や米國、歐洲から渡つたもの、あらゆるものゝ雜居である。

併しそれは兎に角として、思想上の點に及ぶとその心さへあれば、米國にあつても不便はない最も流行がないから、日本の如く雜誌によつて手取り早くすぐれた哲學者や、物理學者を理解するは困難ではある。數に於ては實に夥しくはあるが併し日本の樣に講義祿の樣な雜誌は見ない。何れも薄いものである。併しその道々には何れも獨逸新カント學派やアインスタインの相對性原理でも知られてゐる研究されてゐる。

これは惡くいへば米國が、自分を何でも世界第一等國と信じて、外國の傾向に無頓着で思想界に華々しさを欠ぐとも言へやうし、良く言へば自信力があり、思想界も落着いて着實だとも言へる。何れにせよ。日本の狀態も手取り早い敎育を授ける點に於て、尠くとも雜誌の尨大さ丈けでも日本

特有のものであることなどは良い點かも知れぬが併し東京市の場末の町々の様な、雜然極る印刷物を、とてつもない大きな廣告を新聞に出して賣り出す現象は、外國にあつて長い年月を經た流行のない統一のとれた、勘くとも澁んだ氣持のする雜誌を讀んでゐる時に、いろ〳〵なことを考へさせられる。日本の國民性、現在それがおかれてゐる特異な境遇、將來の舵の向け方など……

米國民の法律無視と自律心

日本には二つの驚異す可きものがある。第一は小學教育の普及、第二は警察權の完全である。第一の點はこゝに關係ないが、第二の警察權の確立は確に日本國を推持してゐる。これと司法權の權威とは最も清く推持されてゐる。併しこれが日本國の爲めに賀す可き現象であるか。又その名譽であるか、否かは別問題である。日本はやつと警察權でその秩序を推持してゐる。日本では一步外に出れば必らず巡査に會ひ、交番を見る様に巡査が多い。(米國では巡査を滅多にみない。尤も民衆中の或者等に此巡査權は與へてゐるのではあるが)併し自分は若し一度び此警察權が日本に亂れたあとに來る可き混亂を思ふと、慄然たらざるを得ぬものがある。我等はその證據を日本の電車内に屢々起る紛擾に見る。乘客は市政の無能より鬱る不便の仇を、車掌の社會的地位を輕蔑して、これにあたるのである。紐育市や市俄古市の交通機關の雜踏は、決して東京市のそれよりも好い狀態にはない。しかも我等は今日迄一回も車掌と乘客との爭論を見ない。何れも車掌の權威を認めて柔和にこれに服從してゐる。

我等は米國にあつて心ある人々が米國の Lawlessness といふことを憂ひてゐるを屢々聞く。巡査は賄賂をとる。司法官は黄金に支配される。若し一人が殺人罪を犯すも、こゝに巨額の金を積めば一時釋放される。その間に何れなりとも逃れ得らるゝのである。殺人犯人の搜索も仲々容易ではない様子である。

この現象が現れたものにケー・クックス・クラン

なる秘密結社がある。ネグロの將來の問題、ローアン・カソリツタ敎會の將來——移民によりてその數增加しつゝある——猶太人の問題——今日米國は猶太人に對し世界に最も自由なる國なるため猶太人は著しく增加し、三百萬人以上に上つておる。而して學界官界各方面に著名の人物を出してゐる。電氣理論に於て世界一位の學者なるシユタインメッツや米國勞働運動の首將ザミユエル・ゴムパースなど猶太人である——等は米國々家の目下の最大なる問題の一である。此秘密結社は此三方面の勢力を看視し、且つ抑壓するために生れたものである。法律をくゝる社會の不德漢をも懲してゐる。頭部より爪先迄白のカウンを着用して何人あるか分らぬ樣にしてある。入社式は死を誓つてある。彼等の活動は漸次に社會の面に現はれ、政治方面にものびてゐる。昨年末の議員選擧に於て、レバブリカンが敗れその知名の士が落選したのは、米國民の現政府に對する不信用から來たのではあるが、併し又彼等の活動が力となつてゐる加奈陀に於ては昨年二月より十二月迄に十二個のカソリツク敎會が原因不明の失火によつて燒失し莫大なる損害高によつてゐるが、恐らく此秘密結社の業であると人々は思つてゐる。左樣言ふ譯で現在では政府及び新聞、敎會などは此運動を阻止す可く働いてゐる。敎會はかくカソリツク、猶太人ヲグロと人を區劃するの不可なるを主張し、過日開かれた知事會議ではフラックス反村の知事が自分は此結社がカソリツク敎會や、猶太人や、黑人と戰ふから反對するのでなく、彼等がマスクを着して己の何人たるかを隱蔽し、テロリズムと暴力の下に戰ふが故、反對するのであると言つてゐる。市俄古市には現在五萬の社員が相當し、ネグロには十一萬人、ローマンカソリツク會員は百二十萬人、ユダヤ人は十二萬五千人以上——が市民は彼等との戰鬪を開始して、その社員になつてゐる銀行家や商業家にはボイコットをやつてゐると新聞は傳へてゐる。

併し米國民は暗には此運動に同情してゐるものが多い。かくも警察權が不確であるにも拘らず、米國が保たれてゐるのは何に原因するか、自分は

これを國民個人々々の自律心によるものと信ずる此自身自らを制し、他の力に驅られず、自ら進んで社會道德を守り、又世論を形成してこれを守らぬものに制裁を加へる。

如何に彼等が自律心と服從心に富むかは、たとへば一の寄宿舍でも平素自分が反感を抱いてゐても、一度その者が寮長に擧げらるゝと、從順にその命令に服從して行き、公のことに決して私情を差し挾まないのによつても分る。

米國人は道理によつて働き、日本人は感情によつて働く。

紐育市及びその周圍發展計畫

市の中心マンハッタンのバッテリイ公園を基點に周圍五十哩への放射の線内を大都市地域としてその發達を計る建設的設計が『紐育市及びその周圍の都市計劃委員會』によつて二月廿五日に發表された。各扇圓形内に專門家委員を任命してその調査に從事してある。今は說明を略する。唯下の前揭の圖を參考のため讀者におくる。

山幸に晴れの風冷ゆ

五月かな

アカシヤの花咲きそむる

皐月かな

『ヴエランダ』に元りて

——思ふ事ども——

郊　邨

■現代の理想主義哲學體系中、所謂マールブルヒ學派 Marbursselhule の Hermann cohen は、美や藝術の創造の源泉として純粹感情なるものを論じて曰く『普通の考によれば、意識成立の最初の現象は智的な感覺であつて、之れについて感情が現はれると想像される。けれども此の考へは誤つてゐる。感情が發生するには、先づ外來の印象に反應すべき傾向——即ち意識の本能的又は無意識的傾向とも觀られる本源作用が先づ吾々の意識になければならない。否斯やうな本源作用が意識發現の最初の形でなければならない。而して斯やうな本源作用は感の力（Das Fullen）そのものであるから、意識の根本活動又は本源形式（Wrtorm）は此の感情の外に無い。故に感情は全意識の本源であり、又中樞であつて、意識活動は先づ感情を以て始まるものと解釋しなければならぬ。即ち意識活動は自發的活動であるから、運動（Beveguing）は即ち意識活動の根本事實である。感ずることは即ち内から外に向つての運動が起ることを意味する。一層簡單に云へば、感情は運動であり、又運動は感情である。歌ふこと、語ること、踊ること、書くこと、——此等はすべて内的感情の發現であつて、内的感情が凡ゆる種類の運動を産出するのである。各種の運動中リヅムは最も根本的なものであつて、例へばシムメトリーとか、プロポーションとかは、實はリヅム運動の特殊な應用に過ぎない。斯くて美乃至藝術の根本は表現的運動であり而して表現的運動は内的感情の所産であるから、

美乃至藝術が感情と最も親密な關係を有つてゐることは更に疑はれない。即ち美や藝術は感情の所産であつて、感情—純粹感情—は藝術發生の根源である』と述べてゐる。

■即ち、美乃至藝術は、所謂、純粹感情の運動であつて、その運動は表現そのものによつて外部に何かの創造を爲す、それが美であり、藝術であるといふことになる。それに就いて、例のカーペンターは生命の藝術を說いて曰ふには『生命は表現である。我等は人生に就いて考ふれば考ふる程、吾人が生活上滿足することの出來るものは、自己の表現、自己の深刻な感じの表現であることを知る。——自我を外界に創造して、其れが我內部の世界と相呼應するに至らば、これ寔に偉大な幸福であり、生命の充實である。自我表現の材料となるものは萬物である。我等は欲するが儘に此の材料を選定することが出來るが、一として役に立たないものはない。動作、衣服、家屋、職業、談話、知識、手工、音響、色彩、物品、形、花、木、星、石——凡て之等のものは表象として用ひられ、凡て我等自身の表現に供せらる。これに依つて我等は人に知られ、世界を組織する人間の大なる團體に入ることが出來るものである。我等は今や、人類の歷史上偉大な絶頂に近づいて居る。今や人類は生命を眞に解する時代、物質を表現の用に供する時代に近づいて來た。——これから人類は物質に超越して、物質を唯自己存在の目的のみに用ひなければならぬ。機械力の驚くべき進步と共に來らむとする時代は、永い間の地上の束縛が人類を解き放つて、人間に翼を與へる。人はその翼を打かはして眞の生活にかけのぼることが出來る』と。

■差し詰め建築家が藝術家であるか、建築は藝術であるか、并麼問題に頭を捻る必要はない。斯の人生そのものが藝術であり、生活は自我の表現であるならば、諸多の材料、——左樣、最も廣い意味に於ける材料として建築科學も建築物質も、それが軈て我等の表現則我等が藝術の外部創造の素材である。斯の意味からすれば、建築資材や建築科學によつて我等が制御（コントロール）さるでなく、我等がその態度を逆に辿つてこそ、其處に、ほんとうの『建

築』があり、建築そのものに藉りて、我等生命の表現則藝術があるのだ。——斯る言葉の平凡であるか、怎うか、といふことは、現在我國の建築界を觀たならば、正鵠な判斷を得るであらう。

■今を去る百十年許前に、市俄古市の萬國博覽會は偉大なる或るものを産むだ、それは、現代の所謂『都市計畫』そのものである。件の博覽會が發散した醇酵は、單り市俄古市民許でなく、米都市——或は歐洲の都市民をも醉はしめて、『我等は何故に此の博覽會のような都市を有たないのであらうか、何故に斯の樣な都市を建設しないのであらうか、我等は此の博覽會が示してゐるような善美を竭せる都市に生活を有たないのであらうか』と、彼等は恍惚たる情を禁じ得なかつたのである。百十年の今、我等市民——然り我等大都市民の耳朶に、漸く『都市計畫』てふ響きが傳つて來た。恒星を旅立つた光線が幾千百年の後ち我地上にやッと我等のものとなる程爾く悠久でないとしても、氣持ちはそれと同樣な感じを我等に與へる。そして、我都市民が、斯光りに——斯の響に、市俄古市民杯の恍惚氣味な處でなく、感興の餘りに薄いのは、今一世紀も後の仕事だ、と云ふのであらうか、何處かの碑に、後世歷史家を敎ゆる斯麼ものが出來ねばよいが。曰く、

『千八百十三年市俄古市民初而目覺都市計畫日本郡市民傳酬　聲二百餘年漸覺都市計畫曉曙』

■都市社會問題は、要するに、防貧と救貧の二大部門に分けることが出來得る。その中の救貧問題に就いて、米國の應用社會學者アモス・ゼー・ワーナー氏が、貧困の原因なるものを說いて、斯う云つてゐる。

彼れは、その原因を內因と外因と習慣との三つに分け、內因として、怠惰及不充分なる能力、放縱及短慮、疾病、判斷力の缺乏、不健全なる情慾の五つとし、外因としては、凶作、天候の不良、衛生狀態の不備、惡友又は不良の境遇、法律の不備、無敎育、實業界の不振、濫救的慈善、家族係累の過多、都會の膨脹、地代の騰貴、住宅の不備の十二とし、而して、件の實業界の不振を、貨幣の下落、商業界の變動、惡稅、不時の災害、勞働

者に對する壓抑、勞働需用の缺乏、生産力の增加に分けてゐる。曾つて、東部倫敦に於ける細民の生活狀態を、例のチャールス・ブース氏が調査したる四千人程の中で斯ういふ結果を示した。

極貧者（日常生活の出來ない者一千六百十人中）

浮浪四%、勞働需用の缺乏、賃金の低廉、利益の少額、五五%、飮酒（夫又は妻）殊に主婦の飮酒、一四%疾病、老衰、係累の過多、疾病又は勞働の不足二七%

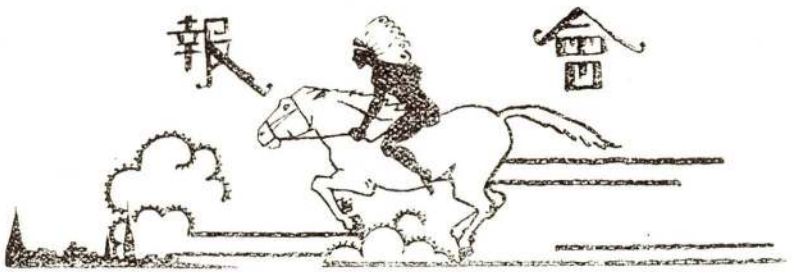
貧窮者（二千四百六十六人）

浮浪四%、勞働需用の缺乏、賃金の低廉、利益の少額六八%、飮酒（夫又は妻）殊に主婦の飮酒一三%、疾病、老衰、係累の過多、疾病又は勞働不足一五%、

◎都市問題をも考察する事が、建築協會の仕事の一つであると思はれるから、住宅と貧困の關係といふようなものをも、大阪や東京その他の大都市で斯ういふ風に調査してみたらば怎麼ものであらう？。

若葉の
小驛
乘る人もなく
さみだるゝ

日本建築協會々報



會報

○會務

一、當協會本年春季大會として來る六月三日(日曜日)午後一時より中の鳥中公會堂に於て通俗建築大講演會を開き會後午後六時より同所大食堂に於て晩餐會を催すことに愈々決定し現時春季大會委員會委員に於て準備中なり

○會合

○春季大會委員會(第四回)

△日　時　五月十四日午後五時三十分—同九時

△會　場　本協會會議室

△出席者　宗委員長、福永幹事、山脇、舟橋、横濱、湖戸、呼子、中村、佐藤、宮本長各委員

△議　事

一、宗委員長より寄附金應募の模様に付報告ありて議事に入る

一、左の件に付凝議の上議決せり

1、金拾圓以上寄附會員の晩餐會會費に關する件

2、立看板廣告に關する件

3、入場券印刷に關する件

4、通知狀、招待狀に關する件

5、其他雜件

○理事會

△日　時　五月九日午後五時三十分—九時十分

△會　場　本協會會議室

△出席者　內藤、舟橋、野呂、設樂、佐藤、園部各理事

△議　事

一、內藤理事理事長代理として座長席につき春季大會委員會及社團法人委員會の經過に付報告あり

二、次いで主計より本年自一月至四月會計報告あり經常費に於て不足する所あるを以て經費節減を希望し凝議の結果左記二件を實施のことに可決せり

A　雜誌原稿料改訂の件

B　雜誌定價改訂の件

尙假決議として可決せしもの數件あり

たり

三、左の件は何れも可決五月例會に附議のことに決す

A　普通賛助員賛助費改訂の件

B　名譽賛助員推擧の件

四、五月例會講演は村野藤吾氏に依頼せしも差支の爲左の通講演を願ふことに決定

爆發物を製造又は格納する家屋の構造法に就て　工學士　園部文雄氏

五、會員銓衡

入會　會員五名、地方會員一名、普通賛助員十二名

退會者　普通賛助員二名

○臨時理事會

△日時　五月十七日午後四時三十分―六時三十分

△會場　本協會會議室

△出席者　片岡副會頭、舟橋、野呂、佐藤、園部各理事

△議事

一、舟橋理事理事長代理として座長席につき議事に入る

一、内藤理事送別會の件

有志により送別會を開き佐藤理事擔當斡旋することに決す

二、内藤理事役員辭退の件　承認可決

三、主記代理者の件

理事補欠する迄園部理事主記を職掌のことに決す

四、普通賛助員賛助費改訂に付再審議の件

再審議の結果改訂に可決例會に附することに決せり

五、其他雜件協議可決せり

六、會員銓衡

入會　會員二名、普通賛助員四名

○例會

△日時　五月十七日午後六時三十分―九時

△會場　大江ビルヂング大集會室

△出席者　講演者、園部文雄氏、會頭片岡安理事舟橋喜一、理事野呂長四郎、理事佐藤彰美、西谷（書記）

（會員）　能村知二氏、佐々木岩次郎氏、青木鐵造氏、近澤武男氏、森篤次郎氏、林繁松氏、渡邊義三氏、坪井誠一氏、島田艮馨氏、長澤榮作氏、中川瀬八氏、下浦光衛氏、和田貞治郎氏、小寺彌一氏、高井芳雄氏、澤原隆夫氏、西脇秀太郎氏、波江悌夫氏、森本藤吉氏、橋本壽竹氏、加藤善吉氏

（賛助員）　德光文七氏、小林喜多次郎氏、足立彌一郎氏、川久保梅次郎氏、勝田毎次郎氏、山崎幸麿氏、元木德松氏、小林喜多次郎氏、森興助氏

△記事

一、舟橋理事の紹介に依り豫報の通り工學士園部文雄氏登壇左記演題の下に鐵筋混凝土造火藥庫圖解を示しつゝ約一時間餘の講演をなす

爆發物を製造又は格納する家屋の構造法に就いて

講演後二三名の質問應答あり舟橋理事謝辭を述へ拍子の裡に講演終了せり

二、次いで例會を始め舟橋理事理事長に代りて左の議案を提出して會員に諮る

1、左記の人々を本會名譽賛助員に推擧するの件

大阪府知事井上孝哉氏、大阪府内務部長平賀周氏、大阪府警察部藤沼庄平氏、大阪府産業部長兒玉孝顯氏

2、普通賛助員賛助費増額に關する件

右二件共一名の異議者なく賛成なりしも出席者二十六名にして細則上定員に滿たさる爲議決するに至らず舟橋理事より會務報告ありて閉會を告げたり

○退會者

（普通賛助員）油谷清次君、村上寅藏君

○入會員

（會員）森定松之祐君、岩崎甚太郎君、宮崎貞郎君、谷實君、設樂貞三君、大倉三郎君、玉川貫治君

（地方會員）川崎鉄三君

（普通賛助員）林田瀧次郎君、田中儀一君、中野安隆君、藤田重治君、増井敬君、井奥進君、七尾憲太郎君、福田健三君、玉川芳夫君、澤伊三郎君、山本一善君、加藤一俊君、齋藤小三郎君、牛田芳男君、小泉吉明君、石澤三次郎君

○住所移轉

長田岩次郎君　兵庫縣武庫郡六甲村篠原字家東一二八

小田垣清造君　京都市上京區岡崎町西福の川四一

伊藤清造君

高田利一郎君

藤田晃之助君

松井魚平君

岩田丈一君

伊部貞吉君

大槻貞夫君

勝田每次郎君

小橋重作君

井上準一郎君

中村喜知君

寺村善助君

大野喜作君

中山伊勢市君

小林利助君

大連市伏見台南滿州工業專門學校建築工學科建築分科教室

大阪府下東成郡天王寺村高砂通二三〇八

大阪市西區立賣堀北通四丁目一二前田松本建築事務所

東京市外千駄ヶ谷町七五六

横濱市東神奈川柳町一〇五

東京市四谷區鹽町三丁目五

東京市本郷區駒込千駄木町廿六植村克巳方

第四師團經理部內

府下東成郡古市村字千林一三一三

名古屋市西區島田町五住友銀行名古屋支店建築場

大阪市南區天王寺眞法院町五六九二

大阪市東區上本町八丁目一八五及金留次郎方

大阪市西區江戸堀南通り五丁目三十三

名古屋市千種町葛城工業所名古屋出張所

京京市日本橋區平松町加島ビルゲンガ竹中工務所東京出張所

○寄贈圖書

庭園五號　同協會

住宅五號　住宅改良會

建築雜誌四號　建築學會

材木新聞每號　同社

金屬工業新聞每號　同社

經濟資料五號　東亞經濟調査會

都市公論五號　都市研究會

土木建築四號　住宅改良會

建築世界五號　同社

工業評論四號　工業評論社

朝鮮鐵道協會々報五號　同協會

建築畫報五號　同社

國民經濟雜誌四號　寶文館

通俗衛生四號　大阪府衛生同

電氣學會雜誌四號　同學會

工業の友五號　工手學校

滿洲建築協會雜誌四號　同協會

建築之普及四號　帝國工業教育會

建築業協會月報五號　建築業協會

新住宅五號　洪洋社

電氣評論四號　電氣評論社

大阪市商工時報四號　市役所商工課

工業之日本四號　工業之日本社

名古屋工業會々報五號　同會

會報四號　大阪工業會

都人第一光　都人社

役員及職員

副會頭　片岡安
理事　池田實（理事長）
理事　本田登
理事　竹腰健三
理事　内藤太郎（主記）
理事　設樂貞雄（編輯）
理事　野呂長四郎（編輯）
理事　宮本金七（編輯）
理事　舟橋喜一（主計）

理事　佐藤彰美
理事　園部文雄
編輯主任　江村郊邨
庶務主任　西谷節
會計主任　山田靜吾
編輯庶務　清川伊佐
編輯　伊藤二世子

會員	二六八	會員（地方）	九五
名譽贊助員	六七	終身贊助員	五五
特別贊助員	二六	普通贊助員	四九八
合計（五月廿五日現在）	一〇〇九		

臨時博覽會部（住宅改造博覽會）

會長　片岡安
幹事長　葛野壯一郎
常務幹事　波江悌夫
常務幹事　小笠原久錫吉
幹事　木本禹象
幹事　松本喜一
幹事　舟橋文吾
幹事　瀨戸節
書記　西谷靜
書記　山田吾

本誌及廣告料定價表

本誌	册數	定價	郵稅
	一册	七拾五錢	貳錢
	十二册	六圓	貳拾四錢

廣告料	種別	金額
	半頁	八圓
	一頁	拾五圓
	特別頁モ料金一定シアリ御照會アリ度シ	

（毎月壹回一日發行）

大正十二年五月廿五日印刷
大正十二年六月一日發行

大阪市外中津町下三番一九八
發行兼編輯人　江村恒一
大阪市東區内淡路町一丁目廿一番地
印刷兼印刷人　大阪活版所
大阪市北區絹笠町九
大江ビルヂング三十七號室
發行所　日本建築協會
電話北四一九一番
振替口座大阪三九七五
大阪市西區京町堀羽子板橋北
特約販賣店　柳々堂書店
電話（土佐堀二四四〇番）
振替口座二〇八四番

●第六集第六号　掲載広告一覧（掲載順）

内外木工所
内田商事
佐倉金庫店
HANKEN SEISAKUSYO
阿部鉄工所
瀧山商店
南満鉱業
品川商店
島田硝子製造所
石綿スレート
吉岡商店
山本東作商店
奥村重兵衛商店
服部禎商店
日本建築紙工大阪出張所
神藤ポンプ製造
大福海上火災保険

浅海商店
出浦建築事務所
大阪建築所
新海建築工務所
小笠原建築事務所
渡辺建築事務所
葛野建築事務所
片岡建築事務所
片岡松井建築事務所
横河工務所
横浜建築事務所
竹内建築事務所
宗建築事務所
国枝工務所
柳下建築事務所
真水工務所
真水三橋建築事務所

舟橋建築事務所
遠藤於菟
木子建築事務所
設楽建築工務所
茂、野村建築事務所
岡部建築事務所
前田松本建築事務所
西原衛生工業所大阪支店
葵商会
池田勘蔵
日本土木大阪出張所
大阪橋本組
大林組
竹中工務店
長瀬組
中新
佐伯工務所

野村亥之助
久保田組
熊取谷熊次郎
山本組
松村組
小西組
藤木正一
鴻池組営業所
駒井喜兵衛
安藤組大阪出張所
有山組
清水組大阪支店
森本建築社
銭高組
清水福太郎
久原鉱業大阪出張所
山田大理石製作所
矢橋大理石商店
高島屋呉服店

コルク工業
高田商会
須賀商会
内外土木建築材料
栄進社
松尾和助本店
山本窯業商店
萩原煖房工務所
新田ベニヤ製造所
川崎工場
砂崎
大野式特許品営業所
東京建鉄
河村青写真調製所
宇野沢組ステインド硝子製作所
品川白煉瓦
浅野工業所
関西ステインドグラス製作所
日本木材工芸

都市工業
大理石工業
ベニス工房
作田工務所
鈴木製作所
城口汚水処理研究所大阪支店
米本栄商店
田中タイリング商会
浜口商店
日本トラスコン鋼材
大阪耐火リノリウム工業
日本ホロタイル
岩崎商業
日本工剤
小野田セメント製造
西孫南店
岡部商会
黒宮建築事務所
木下商店

下里商店
大分セメント
山田組
田中昌司商店
二和商会
日本洋瓦大阪出張所
川口煉瓦製作所大阪販売部
今井徳太郎商店
東京電気
桐田商会
大阪窯業
旭硝子
日米板硝子
政正
駒井商店
日米工務所
東洋コルク
山中商店
亀井商店

今井硝子店
積善館
筑紫商会
横河橋梁製作所
田中源太郎商店
極東板硝子工業
